

UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFOと宇宙哲学の専門誌

コンタクティー

私は別な惑星へ行ってきた!

SUMMER
1986

月面にいた2機のUFO

超低空に出現した大型円盤と黒い人影

私も光体を見た — 松山事件の傍証出現

多くの館

〈大宇宙には人間の住む惑星が無数にある〉

93



〈巻頭言〉 曙 光	1
月面にいた2機のUFO!	2
超低空に出現した大型円盤と黒い人影!	笠原弘可 4
私も光体を見た	伊藤達夫
多くの館	G・アダムスキー 10
質疑応答	G・アダムスキー 16
GAP短信	20
私は別な惑星へ行ってきた!	22
〈投稿欄〉 ユーコン広場	33
〈支部大会報告〉 大阪/松山	35
〈広告〉 アダムスキー全集/英文版Uコン	36
〈予告〉 61年度地方支部大会—その2—	37
〈広告〉 61年度「ギリシャ・トルコ・ローマ宇宙考古学の旅」	38
全国月例研究会案内	40



GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

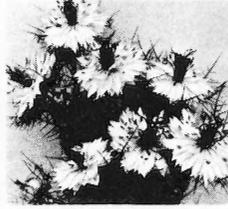
日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

「またもすごい事実が明るみに出た。円盤・母船への度重なる搭乗ばかりか別な惑星へ案内されて超絶した大文明を見てきたという青年は、それまでアダムスキーの体験については知らなかった。『宇宙からの訪問者』を読んだのはつい最近で、アダムスキーがもうすごい人物なのに驚いたという。一九八〇年代の今日でさえこの種の体験は容易に洩らせないので、三十年も昔の五〇年代に詳細な書物を出したのは信じられないほどの勇氣と自信に満ちた行為というわけだ。」

〈巻頭言〉 曙 光



しかし順風満帆の人生ではない。中学を出てから商店の小僧、商館の小使など苦難の生活に喘ぎながら夢の実現を目指した不屈の信念と努力、特に五十歳でトロイ発掘を開始した頃に正統考古学界から浴びせられた嘲笑と罵倒を無視して展開した雄大な底力は今も燦然たる光芒を放っている。

日本でも類似の例がある。昭和六年四月十八日、兵庫県明石市の崖崩れの中から化石人骨を発見した直良信夫氏も、やはり大分の貧家出身で、昼は会社、夜は夜学に通って勉強した。震えながら手に取ったという化石人骨を旧石器時代のもつと判断した氏は、東大人類学教室へ届けて鑑定を乞うた。しかし返ってきたのは悪口と嘲笑だけである。日本には旧石器時代は存在しなかったという当時の学説のためだ。氏を不利にした要因は無学歴。ついにサギ師、ヤマ師とのしられた。

ところが国立歴史民族博物館の春成秀爾助教は、昨年三月、明石市西八木海岸で十一万ないし十七万年前のものと思われる加工痕のある旧石器時代の木片が出土したと今年三月二十九日の発掘調査研究会の席上で発表し、大センセーションを起こした。これにより同地にネアンデルタール人時代の旧人が生活していたことが裏付けられて直良氏の発見も五十五年ぶりに輝かしい脚光を浴びることになった。これで「明石原人」論争に終止符が打たれた

が、直良氏は栄光の日を待つことなく昨年他界された。

アダムスキーもこの類の代表選手だろう。彼を最大に不利にしたのはやはり無学歴。このためヤマ師扱いされ、「ハンバーガーを売る空飛ぶ円盤楽隊」の上で踊る商人」その他の罵詈雑言を浴びせられたが、彼は屈しなかった。ケネディー大統領が彼を支持して宇宙への進路を開拓したことは一般に知られていない。

アダムスキーを非難する人はあとを絶たないが、一方では彼と同じような体験をしながら沈黙している人もある。本号掲載の「私は別な惑星へ行った」の春川正一氏もその一人だったが、ついに時機到来とばかり詳細を打ち明けた。だが本名・住所・職業は伏せてある。何もかも公表するにはこの世界は危険が多すぎるのだ。しかし氏によるとスペース・ピープルはがっちり氏を援護しており、かつて新幹線で東京まで出たときは大母船二機が上空を並行して飛んだという。到底フィクションとは思えない氏の体験はアダムスキーの真实性を立証するものである。氏は円盤に搭乗した際、他の日本人（複数）と乗り合わせたというから、類似の体験者は少なからず存在するらしい。みな後難を恐れて言わないのだろうと氏は語っている。

考古学と違って別な惑星の偉大な文明の物的証拠はだれでも発掘できるというわけにはゆかない。しいて物証といえど惑星探査機が撮影していると思われる金星や火星の都市の写真の公開を待つ以外にないが、米ソはひた隠しにしているだろう。そして金星の表面温度をセ氏四八〇度と発表しておけば大衆を眠らせることができるし、世界戦略で存分に機能を発揮できるというわけだ。つまり四八〇度説は米ソにとって核爆弾よりも強力な武器なのである。したがってアダムスキーを攻撃し、太陽系の地球以外の惑星群に知的生命や文明など存在するはずはないと主張する人は、まんまと好餌的になっているにちがいない。

権謀術数の渦巻く世界の政治の裏面はおそろしく複雑怪奇で、何が行われているのか大衆にはわからない。しかし地球人の暴走を防止する目的でスペース・ピープルがひそかに社会の裏面で活動を続けていることはアダムスキーもいやというほど力説しているし、春川氏も非常に興味深い裏話をしているから間違いないだろう。

UFO研究界は、こうした裏面に精通した人またはその方向に感覚を伸ばそうとする人と、大國政府またはNASAのごとき科学機関の表面的な発表を楯にして裏面に感覚を向けない人の二種類に大別されるようだ。だが時代の潮流は確実に別惑星群大文明存在確認の方向に動いている。そうならざるを得ない徴候があるのだ。(久)

TWO UFOs on the Moon!
仰天したアポロ宇宙飛行士たち

月面にいた 2機のUFO!

米ナショナル・エンクアイアラー紙一九七九年九月十一日号より



▲月面へ降りるオールドリン。アームストロング撮影。

NASAの強力な隠蔽工作と圧力で大衆盲目化

異星から来た二機の宇宙船がアポロ11号の近くに着陸し、アメリカの宇宙飛行士たちがホコリっぽい地表に降り立つのを見つめていたと、アメリカとソ連の科学者連が気絶させるような発表をした。

宇宙飛行士たちはUFO（複数）を見たばかりか写真にまで撮ったのだ。エンクアイアラー紙が知ったところによると、この腰の抜けるような近接遭遇は現在までNASA（米航空宇宙局）によって完全に隠されてきた。

NASAの元最高顧問はこの驚異的事件があつた歴史的な月面着陸中に発生しながらも秘密にされたことを認めている。

「アポロ着陸船があるクレーターの底に着陸したとき、二機の異星船がクレーターの縁の所に現れたんだ」と、以前NASAと契約していた科学者のモリス・シャタレンが打ち明けた。「NASAではこの遭遇事件を皆知っていたが、今までだれもそのことを話さなかつたんだ」

信じられないようなことだが、NASAの隠蔽工作があまりにも強力だったので、このニュースがアメリカの大

衆の耳にはいるまでに十年かかったのだ。それで二年前にこのことをかぎつけたソ連の科学者連が先に暴露せざるを得なかつたというわけである。

「私はこのエピソードが発生したことを絶対的に確信している」と、物理学者でモスクワ大学の数学教授、ウラディミール・アザザ博士は言う。「われわれの情報によると、その遭遇事件は月着陸船の着陸後すぐに報告されたという。

UFOのカラーフィルムは隠された

ニール・アームストロングは、二機の大きな謎の物体が着陸船の近くに着陸してから彼らを見つめていたと管制センターへメッセージを送つたが、そのメッセージは大衆の耳に届かなかつた。NASAが削除したからだ」

オールドリンは着陸船の中からそのUFOのカラー映画まで撮っている。そして彼とアームストロングが外へ出たあとも撮影を続けると、ソ連の別な宇宙科学者、アレクサンドル・カザンツェフ教授は言う。

宇宙飛行士たちが月面に出て数分後に、二機のUFOは飛び去つたとアザザ博士は言っている。オールドリンはその後自分のフィルムを地球へ持ち帰つたが、NASAはただちにそれを隠したのだと教授は非難した。

エンクアイアラー紙との電話インタ

ビューがソ連の秘密機関に盗聴されたことに気づいたアザザ博士は、その情報源を明かすことを拒んだ。しかし彼や他のソ連宇宙専門家は、その遭遇事件は過去二年間、ソ連の科学界で共通の知識になってきたと言う。

UFOは援助に来た?

三人目のソ連宇宙科学者、セルゲイ・ボージッチ博士が確信するところによると、二機の異星船はアームストロング、オールドリン、マイクル・コリンズの動きを偵察するために派遣されたのだという。

「私の意見では、他の文明が地球から来る電波信号を知つたのだ」と、モスクワ大学で講義しているボージッチ博士は言う。

「二機の宇宙船は、月着陸船の緊急時に援助するために急派されたのかもしれない。確かに彼らの目的は、地球の最新の科学技術の程度についてできるだけ知ろうとすることにあつたのだ。着陸を確かめたので、二機のUFOはコンタクトしないで離れたんだ」

異星船はどうやらアポロ11号が月面に着陸するずっと前から尾行してきたらしい。

3 「月飛行の三日目に一個の奇妙な物体を遠方に認めたが、その大きさや形さえもよくわからなかった。アームスト

ロングにとつては互いに連結した輪のように見えたし、コリンズは中空のシンダーだと言ひ、オールドリンは半分開いた大きな本のように見えたと思つている」

謎の物体はついに消えたが、宇宙飛行士たちには正体不明だった。

不気味なノイズ

アポロ11号が月に接近したとき、別な「奇妙な事件」が起こつたと、今は退職しているシャタレインがさらに続ける。

「宇宙飛行士たちは無線に突然奇妙な音を聞いた。汽車の汽笛、消防車のサイレン、または電動ノコギリに似たようなノイズだつた」と彼は打ち明けた。「この音は一種の暗号ではないかと思われた」

だが本当の不気味な出来事はアームストロングとオールドリンが着地したときに起こつたとシャタレインは言う。二機のUFOも着陸して、オールドリンはその写真を撮つたのだ。

シャタレインによると、アポロ11号の管制センターにたいする電波通信は数度の機会に理由なく中断したという。これはUFOとの遭遇のニュースを大衆から隠すために行われたのだと彼は確信している。

シャタレインはさらに言う。「その写真類はまだ全然公開されてい

ない。NASAが発表しなかつたんだ。あそこには確かに異星人がいたんだが、NASAの記録はそれについて沈黙しているんだ」

NASAのスポークスマン、ジョン・マクリーシュは、アポロ11号の宇宙飛行士たちからの音声による通信や、彼らが撮つたフィルムを当局が検閲したことを否定したけれども、通信にわずかな遅れが出たことは認めた。しかしそれは電子装置による処理のためにすぎないという。

アザザ博士によると、UFOに遭遇したのはアポロ11号だけではないという。アポロ12号、13号、16号もUFOを見たというのだ。

NASAの宇宙飛行士が洩らした?

アメリカのUFO専門家連も、知り得る地位にある人々からアポロのショッキングなUFO遭遇事件について聞いていたと言つている。

MUFON(共同UFOネットワーク)の幹部、レナード・ストリングフィールドは、昨年夏に政府関係の科学者がアポロ11号の事件に関して彼に語つてくれたと言つている。

MUFONの副会長、ジョン・シュースラーはエンクアイアラー紙に語つた。「私はNASAで宇宙飛行士たちと働いている。その話は彼らから聞いたんだ」

月面にいる円錐型UFOのNASAの公式写真を見たことがあるというUFO研究者で作家のティム・ペクレイは、政府は体面を保とうとして真相を隠していると感じている。

「政府はアメリカが別な惑星から来る人間にたいして無防備であることを認めようとしない」と彼は説明した。

箱口令をしかれている宇宙飛行士

別な有名作家でUFO専門家のジョーゼフ・グダヴェツジの言うところによると、異星の宇宙船がアポロ宇宙飛行士たちによって定期的に目撃されたことをNASAの秘密文書から直接に知つたという。「大気圏外で何かが起こっていることに間違ひはない」と彼は断言した。

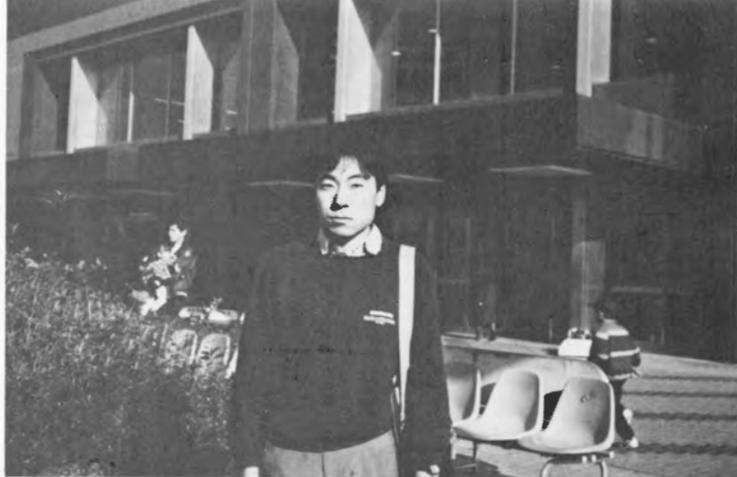
宇宙飛行士たちはUFOとの遭遇事件について沈黙を守ってきたが、それは彼らがUFOは国防にかかわる問題だと信じるように訓練されているからだ、科学者で元NASAの顧問であつたフレッド・ベル博士は言う。

「私は宇宙飛行士たちが撮つたUFOの写真類を見たことがあるが、質問をすると彼らは黙り込んだ」とベル博士は言つた。「この問題で口外することは実際に差し止められているんだ」

「もし政府が月面で発生した事をほんのちよつとでも公表すれば世紀の話題になるだろう」(久保田八郎訳)

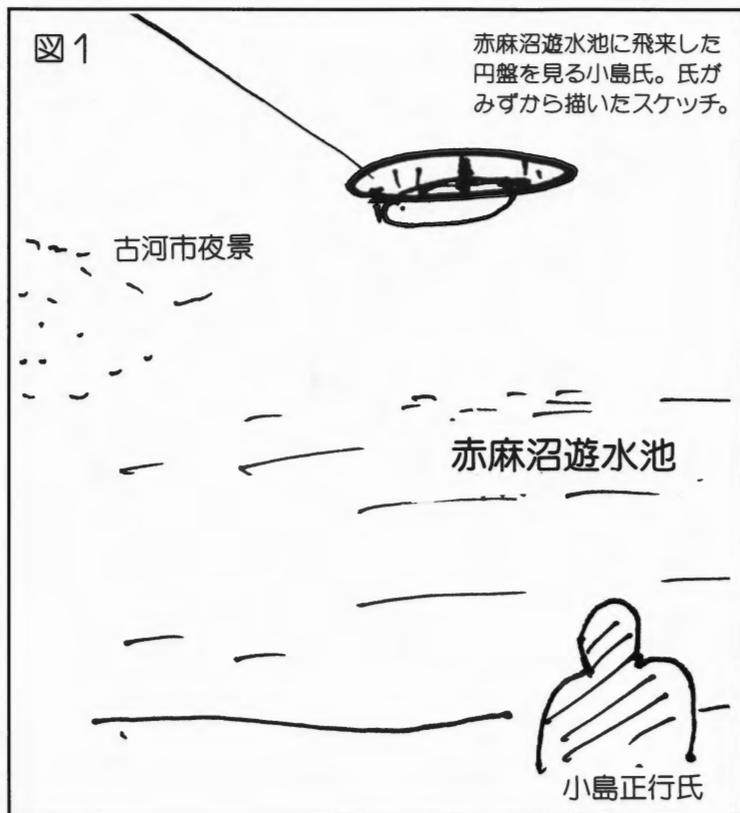
超低空に出現した大型円盤と黒い人影！

赤麻沼遊水池へ突如飛来した円盤は観測者を“観察”に来たのか？
笠原弘可



▲小島正行氏(仙台駅前で筆者撮影)

今を去る十二年前の冬の夜、栃木県の平野部に突如大型円盤が低く降下して空中に停止し、しかも円盤上に黒い人影が出現するという驚異的光景を目撃した人がいる。現在同県内に住む小島正行氏(30)がそれで、UFOブームの発生していた当時だが容易に他人に信じてもらえぬため多年胸に秘めていたけれども、日本GAP仙台支部の笠原代表が密着取材に成功、一挙掲載が可能となった。



UFOPームの頃の観測行

昭和四十九年一月十五日の夜八時頃、当時藤岡町に住んでいた小島氏はバイクで家を出た。目指すは藤岡町郊外の赤麻沼遊水池の堤防である。徒歩約十分の位置だからバイクで走ればすぐだ。目的はUFOP観測にあった。

当時東京にコズモ出版社というのがあり、わが国最初のUFOP専門誌「コズモ」を隔月刊で出版して爆発的な人気を呼んでいた(後に会社はユニバー出版社と改称され、専門誌も「UFOPと宇宙」に題名が変わった)。

この出版社は現在の日本GAP会長・久保田八郎先生が創立したもので、この専門誌により俄然日本にも一大UFOPブームが発生したのである。

したがってUFOPに熱い思いを寄せ、一目見たいと願う青少年が全国的に急増し、多数の目撃報告や写真が同誌の誌面を飾り、若い読者の心をとらえていた。

小島氏もその一人で、なんとかしてUFOPなるものをこの目で見たいという熱烈な願望に燃えながら、真冬の寒空をものともせず、防寒具に身を固めてバイクに打ち乗り、けたたましい爆音を轟かせながら、一カ月以上も毎夜のように遊水池へ通い続けて、提防上から見晴らしのよい夜空を眺め渡していたのである。しかも他人に誘われ

たのではなく、全くの自発的な熱意による観測だから、ここに願望達成の理由があったのかもしれない。

赤麻沼遊水池は大湿地帯

藤岡町は栃木県南部、古河市の北西十キロばかりの所に位置する下都賀郡内の町で、昭和三十年に部屋、赤麻、三鴨の三村と合併した人口約二万一千の小都市。昔、旧藤岡町は渡良瀬川の河港として栄えたが、陸上交通の発達とともにその機能が衰退し、かわって醸造、家具木工などの中小工場が台頭、特に赤麻沼遊水池に生えるヨシを原材料とする藁の生産も盛んになった。

赤麻沼遊水池というのは、「池」というから小さな水溜りを連想しがちだが、実際は面積三十三平方キロメートルの大湿地帯を指す。関東構造盆地の中心付近の低湿地の一部を占める地域。渡良瀬川などの河水調節、沿岸の洪水予防策として大正十二年に沼を拡大して大遊水池が作られた。カモ猟場としても名高い。

近年になって埋積が進行し、遊水池としての機能を果たさなくなったので、昭和四十年に渡良瀬川遊水池調整池化計画が実施され、四十五年に第一調整池が完成している。

寒気の中の忍耐力と信念

この湿地帯の内部では渡良瀬川が二本に分かれており、その一本は藤岡町の方角に向かっている。

午後七時半頃、小島氏は藤岡寄りの川のそばの提防へ来た。そしてバイクを停めて提防上に立ちながら夜空を眺めた。遠く南方に古河市の夜景がきらめいている。静寂な大平原には風以外に物音一つしない。

だが一月なかばの夜間はさすがに寒気が身にしみ、手足がおそろしく冷えるけれども小島氏はよく耐えた。なんとといってもUFOP見たさの執念と強い固な忍耐力がすでに一カ月以上も氏をここへ通わせたのだ。

挫折感はまだ起こらない。「必ず出現する!」という強烈な信念もまだ微動だにしない。この信念と人一倍の純粋さが氏の特徴であるらしい。

大型円盤が接近!

八時頃、氏は古河市の方向の空を見ている。

ふと、星のように光る物が空中を移動するのが見える。あれ?と違って凝視すると、最初は右横に動いているようだったが、しだいにこちらへ来るのがわかった。

目を皿のようにして見つめると、光る物体はしだいに接近した。大きな円盤状の形をなしている。

物体は眼前数百メートルの低い空中

に停止した。二つの円盤が二重になったような格好だ。

全体が透明であった白色光に輝いているが、物質であるらしい。輝きは内部の光源から出る照明のようだ。

よく見ると驚いたことに円盤の前側に一人の黒い人影がある! 最初からふちの所に立ったままで飛来したらしく、それが小島氏の方をジッと見つめている!

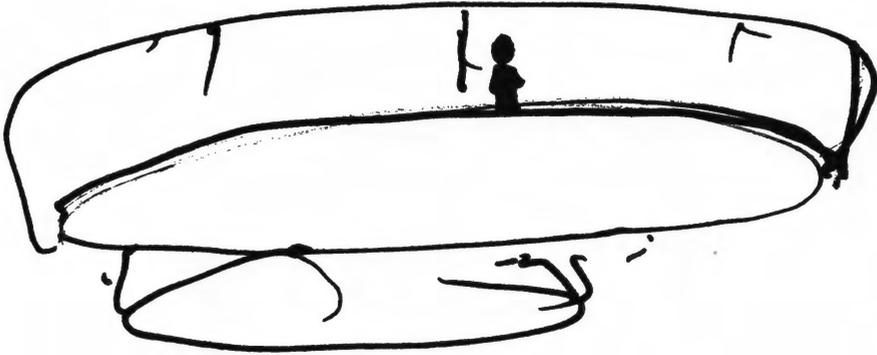
円盤は全体が窓という感じで、つまり外周が窓の連続みたいな状態だが、ある程度の間隔を保って窓を仕切る黒いスジが縦についており、さらに円盤の周囲には細い手すり状の物が付属していた。したがって円盤の外周には通路があったのだろう。黒い人影はこの通路に立つて手すりにもたれていたようだ。内部からの強烈な照明のために「人間」が黒い影になったのだ。

驚いた小島氏は気が動転したけれども、なぜか恐怖心は起こらなかった。むしろ接近した円盤を見て嬉しくなり、「ついにやった!」と歓声を上げたくなった上、着陸して自分を連れて行ってくれないかなあという思いすら一瞬起こったという。

一瞬にして消滅

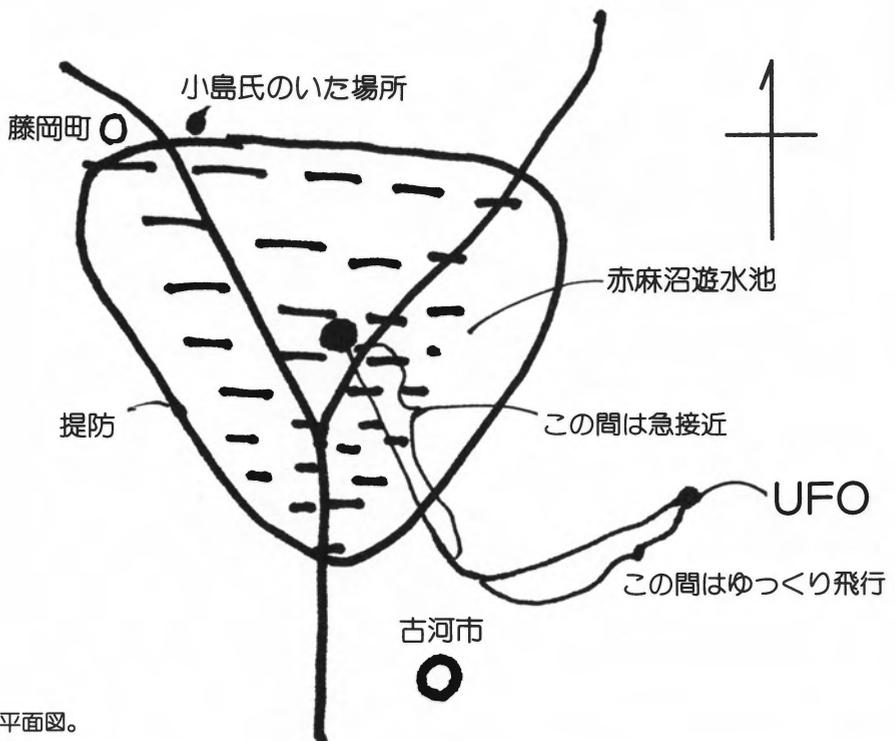
眼前に円盤が出現して約一分間が経過した頃、上空にジェット機の爆音が響いた。すると円盤はアツというまに

図2



遊水池上空に接近した円盤。
黒い人影が見える。小島氏のスケッチ。

図3



赤麻沼遊水池の平面図。
小島氏のスケッチ。

姿を消してしまった。どちらの方向へ飛び去ったのか見当がつかない。一瞬にして消滅したという感じで、呆然と なったけれども、しかし絶対に幻覚ではなく、また心霊的な現象でもない、なぜなら最初は小さい星の光のように見えて、接近するにつれてしだいに見かけ上大きくなりながら前方の空中に 停止したから、明らかに物体だと氏は 断言している。

とすると、急速に消滅したように見えたのは円盤内部の照明を消したため かもしれない。そのあと暗黒の夜空へ 上昇したのだろうか、すでに肉眼では 見えなかったのだろうか、と筆者は推測 する。あるいは重力場を持つ円盤が想 像を絶するスピードで急上昇したのか もしれない。重力場があれば乗って いる人間には何の影響もないはずだ。

超小型円盤も目撃

小島氏はこの驚くべき体験を持つ少 し前にも小型の無人機と思われる UFO を目撃したことがある。しかもその UFO の写真を撮ったので、原稿と写 真をコズモ誌へ送ったところ、何の返 事もなかったという。ネガも一緒に送 ったので、現在手元にはない。

そのときの物体はやはり遊水池の上 空に夜間出現したもので、ピンポン玉 のような小さな丸い物だった。UFO 観測の目的で行ったときのことだ

その小さな物体は氏のすぐ上の空間 でヒョロヒョロと奇妙な運動を続けた。 察するに、まず超小型円盤を飛ばし て氏の想念を観察したあと、次に大型 円盤の来訪ということになったのだろ うか。いずれにせよ何かの関連がある のかもしれない。

純粋で正直な本人

氏は当時アダムスキーの『宇宙から の訪問者』を読んで大いに感動し、特 に遊水池における円盤の大接近に刺激 を受けて感じるころあり、それ以来、 新約聖書を独自に解釈しながらキリス ト教の布教に専念している。GAP 会 員ではない。

しかしあるとき日本GAP東京月例 会に出席したことがあるし、仙台支部 月例会にも出席して体験を洩らしたた めに、明るみになることになった。き わめて純粋で正直な方であるという印 象を筆者は得ているが、現在は事情あ って佐野市の友人宅に身を寄せており、 その友人に迷惑をかけたくないので住 所は公表できないという。

直感力が重要か

それにしても世の中には不思議な現 象や出来事が尽きないものだ。特に戦 後から脚光を浴びるようになった UFO 問題は、いまだに驚異の事件が連続

して発生しているし、写真に撮影され た例も少なからずあるのに、依然とし てUFOの存在に不信や疑惑を投げか けたりする人が多い。

たしかにアダムスキーが言うように、 商品としてカウンターの上で売られる ようにならねば人々は実在物として認 めないのが地球人の特性なのだろうか。 それともUFOなるものに全く言及し ない学校教育の影響によるのか。

この問題にはつまるところ人間の信 不信が大きな要素をなしていると思う。 換言すれば直感力の問題である。もち ろん真実であることを証明する根拠が 存在する必要はあるけれども、一人の 人間が証拠物件なしに陳述することは 信用できない、万人が納得できる物証 を提示しなければ信ずるわけにはゆか ないというのであれば、究極には人間 の思考範囲が極端に限定されることにな り、視野を狭めることになるだけだ。 こうして人間が狭量になれば世界も進 歩しないだろう。

とにかく、UFO研究は結局人間研 究だと久保田先生も言われるように、 UFO問題には図り知れぬ深遠な問題 が含まれているようだ。

なお小島氏と似たような事件が昭和 五十九年九月一日に香川県高松市でも 発生している。夕方アダムスキー型円 盤が超低空で飛来したのを当時六歳の 少女が目撃し、円盤の窓から金髪の少 年が微笑を浮かべて片手を振るとい

驚異的な出来事である。この詳細な記 事は本誌88号に掲載されているので、 まだ読んでいない方は参照されたい。

〔編者注〕昭和四十八年春、編者（久保 田）が都内上野にコズモ出版社を設立 し、わが国最初のUFO専門誌『コズ モ』を刊行した当時は、珍しいせい いか飛ぶように売れて、たちまちマスコミ の注目の的となり、いわゆるUFOブームが巻き起こった。

その当時全国の読者から目撃体験記 や写真類が殺到し、整理するのが大変 だった。編者は当初から経営者兼編集 長として郵便物のすべてに目を通して いたので、前記小島氏の投稿と写真も 見たはずだが記憶していない。ポツに したとすれば相済みぬことだったと思 う。 今まで公表はしなかったが、出版社 設立当初から編者の身辺にもいろいろ と不思議な出来事が発生していた。こ れは『コズモ』誌の創刊目的がアダム スキー問題の啓蒙活動を主体にしてい たために、スペース・ピール側から の応援があつたためだと思ふ。

その後五十三年の秋に編者は辞職し たが、このとき危うく奈落に落ちそう になつた編者をスペース・ピールが 援助されたということも後に聞いた。 それ以後GAP活動に専念できたので ある。同社は数年前に解散したと聞い ている。編者が設立した出版社のこ とが本文中に出てきたので、一言言及した。

An Eye-witness Account 松山事件の有力傍証出現！

私も光体を見た

取材——伊藤達夫

〔日本GAP松山支部代表〕

本誌91号に掲載された「円盤に乗った日本人少年」は大反響を巻き起こした。昭和の初期、愛媛県松山市の郊外で当時五歳の坊やが巨大な円盤に乗せられてクジラの見える海上まで飛んだり、アフリカと思われる草原地帯に着陸してゾウの群れを見たり、果てはエジプトのギザに飛んで丘に着陸し、スフィンクスや大ピラミッドまで見たあと、翌日早朝、松山郊外の自宅に帰るといふ世界でも珍しい驚異の大事件である（詳細は本誌91号を参照）。

ところが実は、その少年が円盤に搭乗した昭和五年八月二日の夜、ちょうど円盤が上昇を始めた時刻に、その円盤と思われる大きな光体を地上から目撃した人がいたのである。この目撃者は当時十六歳の少年であった富士田敏雄氏（七十一歳、現在松山市内に在住）で、この傍証が出た背景には次のような経緯があった。

またも写真展がとりもつ縁

昨年十一月、松山市内で日本GAP松山支部主催の第二回UFO写真展を

開催して大成況裡に幕を閉じたことは本誌92号32頁に報じられたが、開催期間中に富士田氏の子息、徹雄氏（三十一歳）がたまたま会場を訪れて写真類を見学した。そのとき展示してあった本誌91号を見て前記の松山事件を知り、その発生現場が昔父君の住んでいた村と同じ場所であることに驚いたのである。

強い関心を持った氏は同誌を買い求めて自宅へ持ち帰り、父親の敏夫氏に松山事件の概略を話したところ、父親は昔若かった少年時代に友人と二人でUFOらしき物体を目撃した年月日、時間、飛行ルートなどが松山事件のそれと酷似しているのに驚き、少年の頃に見たあの不気味な物体は松山事件で子供が乗せられたUFOと同じ物体ではなかったかと思ひ始めた。

そして五十五年間、（現在の）家族はおろか、だれにも口外したことの無い目撃体験を初めて子息に打ち明けたのである。

徹雄氏も松山事件との意外な関連性に驚いて、早速私宛に詳細な報告をよこされた。こうして私は二月一日に富

士田氏宅で直接敏雄氏にお会いして詳細を聞くことができたのである。

夏の夜の思ひ出

氏によると、息子さんが持ち帰った本誌の記事がとりもつ縁で、昔の思い出話を明るみに出すようになろうとは夢想もしなかったという。あの目撃体験を生涯他人に洩らすことはないと思ひ込んでいたからだ。

氏は語る。

「息子が松山事件の大きっぱな内容を話してくれたんですが、それを聞いているうちに、なにかしらんが熱い思いが込み上げてきましてなあ。友人と二人で見たあの不思議な物体は、ひょっとすると松山事件のUFOではないかという考えが急にわき起こったんです。昭和五年の夏のこと、八月に入つて三日と経過していなかったことだけはハッキリと覚えております。

なぜかという、その当時私の家は農家でしてな。松山市郊外の郡中という所に自宅があったんです。毎年田植えをしたあとに草が生えるのを除く草取りの作業があるんです。うちの家では毎年草取りを七月末には終える習慣があったんです。

その年もそれが終わってひと息ついたもんで、近所の幼い頃からの無二の親友と、夜間、二人で自宅から少し離れた知人宅へ遊びに行ったことを記憶

しておるんです。それが私の考えではたぶん八月の二日頃ではないかと思ひます（松山事件は八月二日の夜、発生した）。

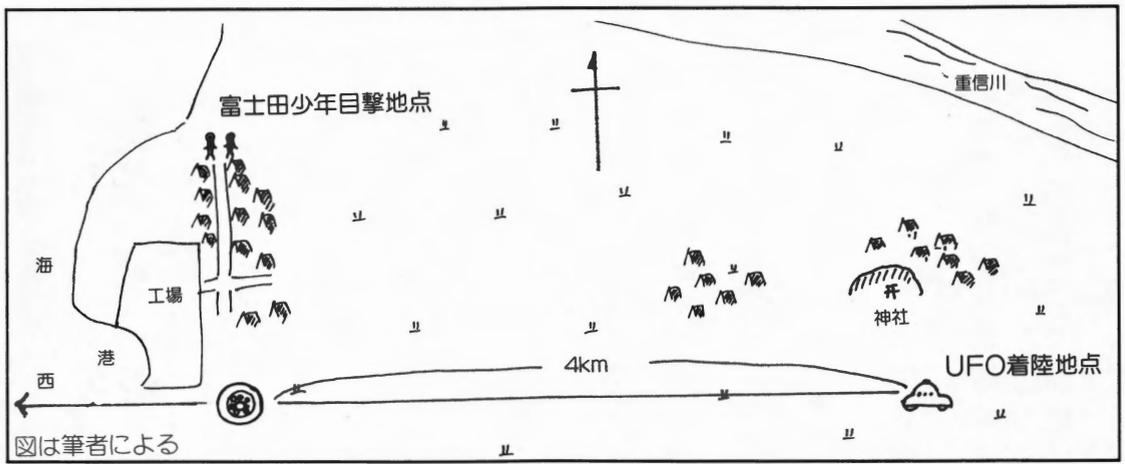
その夜、知人宅で友達が何人か集まって雑談していました。ふと時計を見ると九時五分前になつとるんで、あれ、もう九時じゃ、遅うなるといかんけん、こいらでおいとましようや、と友人と二人で夜道を話しながら帰宅の途につきました。

二人は真南の方向に歩いていました。九時十五分頃でしょうか、あとわずかで家にたどり着くという地点まで来たとき、急に周囲がポーツと明るくなったような気がしたんです。それでなにげなく空を見上げると、天頂から南に十五度下がった上空を、大きな明るく輝く物体がスーッと音もなく移動して行くのが見えたんです。

色はお月さんよりやや赤味がかつていたようです。大きさは満月よりかなり大きかったですなあ。形はまん丸ではなくて、丸を押しつぶしたような楕円型をしていたようです。スピードは、わりと速くて、方向は真東から真西でした。

目撃時間は約十秒くらいで、細い道の両側に家が建ってしまっていて、左の家の屋根の上から現れて上空を横切り、右側の家の屋根に隠れましたね。

私が友人に、おい、今のは見たか？と尋ねると、おお、わしも見た。あれ



は一体何じやろうか?と言います。もつと見晴らしのええ所へ行ってみようや、と言って広い場所へ走って行きましたが、もう見えませんでした。

そのあと二人とも自宅へ帰って、いま目撃した様子を家族に話しましたが、てんで相手にしてくれななだですね。人魂でも見たんじやろうとか、頭がおかしいんじゃないかと、さんざん言われました。あげくの果てに、そんなアホな話はこの家の中だけならともかく、絶対に家の外で他人に話すでないぞ。気が違ったとしか思われんからのうとクギを刺される始末でした。

その翌日友人に会うと、彼もジョンボリして肩を落としていました。

『お前もやっぱバカにされたんか?』

『そうなんじゃ』

『なんでお互いにこれほど人からバカにされんといかんのかのう』

『こんな事を言ってもだれも相手にしてくれはせん。気違い扱いされるのがオチじゃ。もう昨日の目撃のことは一生だれにも話さずにおこうや』

こう言って二人で固く約束したわけです。その友人は十年前に亡くなりましたが、いまあの友人が生きていたらこの話を聞いてどんなに喜ぶことでしょうか』

ここで松山市郊外の地図を広げて、天中少年が円盤に乗った地点や、富士田少年が友人と目撃した地点を確認してみた。両者の距離は直線にして約4

キロメートルある。天中少年を乗せた円盤は一路太陽の方向へ飛行したことが判明しているが、ちなみに定規を着陸地点から真西に向けてと富士田少年がそれらしい物体を見た天頂から十五度下がった位置にピッタリ一致することがわかった。

二人は面識がなかった

当時、天中少年と富士田少年は同じ村に住んではいたが、互いに全く面識はない。

富士田氏は続ける。

「この少年が円盤に乗ってエジプトへ行って帰ってきた体験は本当だと思えます。それに私も物体が飛ぶのを見たというだけで周囲からひどい目にあっていますから、天中さんという人がどれぐらい辛い思いをされたか容易に想像がつかますなあ。心中をお察しします」

——富士田さんが目撃されたUFOらしい物体は、松山事件のときの円盤だとお考えですか。

「絶対にそうだと断定はできませんが、目撃の年月日や時間その他の条件を重ね合わせてみると、客観的に判断してどうやら松山事件のUFOではないかという気がします。日がたつにつれてその思いはますます強くなる一方です。それに松山事件が明るみに出たおかげで私の目撃も真実であったことが客

観的に証明されたことになります。その意味で天中さんの体験は私の体験の真实性を立証してくれたわけで、私も救われた思いがします。天中さんに感謝申し上げたいと思います。

長い年月の間、胸の中につつかえていた重荷が一度に下りた思いがします。これでさっぱりしたですなあ。清々とした気持です。私の昔の体験が松山事件の傍証として少しでもお役に立てば、大変喜ばしいことです」

第一回目の松山UFO写真展であの重大事件を発掘し、今また第二回目の写真展がとりもつ縁でその傍証を発掘することができたのだが、松山事件にまつわるエピソードがごとごとくUFO写真展を媒体にして発生していることはきわめて意味深長で、目に見えない力の介在を痛感するしだいである。

なお富士田氏が光体を目撃されたときに楕円形に見えたというのは、おそらく円形の機体が上昇のためにかたむいていたためであろう。

子息の徹雄氏がUFO写真展の会場で購入した本誌91号の松山事件の内容を父君に話したとき、敏雄氏は、「そう言ったのを聞いたようにも思うが——。もしかししたらそれと関係があるかもしれないのじゃがと前置きして、私もびつくりするぐらい熱っぽく真剣な顔でこの話をしてくれました」と書かれた手紙を徹雄氏が筆者宛によこされた。

多くの館

やかた

信じない聖職者たちに一撃を加えたアダムスキー
 ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

この記事は一九五五年九月、米ミシガン州デトロイトにおけるキリスト教関係聖職者との会合の席上行われたアダムスキーの講演の抄訳である。この頃すでにアダムスキーは『空飛ぶ円盤は着陸した』と『宇宙船の内部』の二著を出して有名になっていた。この講演内容は現在でも通用する重要な示唆を含んでいる。文中の傍点は原文に従った。カッコ内の注は訳者による。



皆さん、こんにちは。私はこの種の仕事（注||コンタクトテイーとして各地で啓蒙講演を行う仕事）をやりたくないとさえ思っているほど、それだけやらねばならないのです。それでこの旅に出かけました。

私の書いた本は出まわっていますし、出版社があとこちに出現することによって、その本が知られるようになることを望んでいます。

私は今頃出かけるつもりではなかったのです。今頃までにはメキシコ市へ行くつもりでした。しかしかわりにこの旅をやらねばならず、カリフォルニアへ帰つたらすぐにメキシコ市へ行くことになると思います。

今日のテーマは円盤問題、私の体験、他人の体験などではありません。テーマは「この世界で実際に何が起きているか」です。このことはいかなる個人または現在発生しているいかなる現象よりも重要です。

私たちは今まで他人に「何を教えてきたか」がよくわかっていません。だからこそ宗教上の問題が起こってくるのです。

タイム誌の最近号（九月十九日号）に、「宇宙神学」という記事が出ています。たぶん皆さん方もお読みになったでしょう。（読んでという声を聞いて）それはよかったですね。彼らは大変うまくお膳立てをやっているようですね。その運動は世界的なものであるからです。時が過ぎゆくにつれてあなたがたはそれについてもつと多くのことを聞くようになるでしょう。

円盤——と言ってよいでしょうが——は、その仕事をうまくやってきました。たとえ円盤がふたたび出現しないとしましても、私たちは決して同じ生き方ではないでしょう。これは確かなことです。あらゆる人間の目が懐疑的な態度で宇宙空間に向けられてきました。特にアイゼンハワーと他の三カ国首脳がジュネーブで会合して、大気圏外へ打ち上げられた一個の人工衛星に関する共同声明を出しました。

異常な事といえば、地球の大気圏のむこうに空気があると私が述べたのがそうです。当時彼らは大気圏外には真空しかないと言っていました。彼らがこの声明を出したときに、その人工衛星は、地球の空気よりも薄い空気が存在するので摩擦を起こして燃えるかもしれないと言っています。これは私

がこれまでに述べてきたことを裏づけています。多くの人が嘲笑した私の声明です。

しかし物事は結局みずから解決していつて、真実をもたらすでしょう。言いかえれば、影は消えて光が輝くでしょう。

天国は人間の内部にある

一方、私たちは世界でイエス・キリストとして知られている偉大な救世主が、私やあなた方と同じ肉体を持って飼葉桶の中で生まれたと教えられてきました。またイエスはあの特徴な体はこの世から天国と呼ばれる空中へ持つて行ったと聞いてきました。天国の万物はいつも空中におかれているというわけです。二十年ほど前にカトリックは、聖母マリアを称えて同じようなことを声明しました(注||マリアも天国へ昇って行ったの意)。

また私たちはイエスが「父の家には多くの館がある。あなた方もそこに住めるように、私は行って場所を準備しよう」と教えたことも知っています。イエスはこの世界(地球)をも館と呼んでいますが、これは彼が空間のどこかに準備しようと言った世界と同じものです。

しかしイエスは、天国はどこにあるのかと聞かれて、「天国はあなた方の内部にある」と答えています。言いか

えれば、あなた方はまさに今、天国に住んでいるのかもしれない。しかし天国で生きる方法を知らなければ、自分が天国にいるということがわからないうでしよう。初めて宮殿につれて行かれても、そこで住む方法を知らなければ何にもならないと同様です。

私たちはエリヤ、エノク、その他多くの人々のことを聞いています(注||これらは旧約聖書に出てくる預言者)。ところが、聖書の歴史の中には、今日私たちがUFOと呼んでいる物体の着陸やコンタクト事件類が約三百五十カ所も出ているんです。それぞれ異なる時代に異なる名称で出てきます。そしてどの例でも、もし人体がこの世界を離れる方法を身につけているならば、それは他のどこかの世界へ行ってそこで生き続けることができるだろうと述べてあることを私たちは知っています。

また私たちは主の祈りにおいて「あなたの意志が天において行われるとおりに、地にも行われますように」となっていることを知っています。しかしだれかが地上へやってきて、「どうしたらよいか」を教えてくれない限り、天で行われているとおりに地上でやるといったって、何をやってたらよいかはわからないではありませんか。

また聖書では次のようにも言っています。「人の子が天から地上へ降りてくるだろう」と。この天というのはいつとも空を意味します。私たちがいかな

る時代に生きていかを知らせるために、聖書には次のように述べてあります。「その時代には世界中の黄色人種、黒人種などが起ち上がって、白人種が長い時代を通じて享受していた権利を要求するだろう」と。

いまアジアのどこにトラブルが発生しているかはご存知でしょう。現在、この世界で発生している物事以上に、どんな証拠があるというのですか。

今までのこうした教えのすべてを、大きな宗教機関の指導者たちは撤回して、かわりに次のようなことを言おうとしています。「われわれはずつとお伽話を教えていたんですよ」と。それとも彼らは世界の実情を認めるでしょうか。もうほとんど認めねばならないでしょう。いま起こっているある事実を私が知らせるなら――。

理解しない物事を恐れる大衆

私は数千通の手紙を受け取っています。コリアー誌は数度私にインタビューしました。そしていくつかの手紙を持ち帰ってそれを記事にしますが、この秋には出るはずですが、はっきり言いますと、五歳の子供から二十歳の年齢に至るまでの若い人たちが、絶えず私に手紙をよこしています。

たとえばコリアー誌が取り上げた一つの手紙を例にあげてみましょう。それは十四歳の少女から来たもので、そ

れにはこう書いてあります。「私はなぜ生まれたの?と母や他の人たちに尋ねました。でもだれにもわかりません。あなたの(アダムスキーの)本を読んだとき、私が何のために生まれてきたかがわかりました。私は同年輩または少し年下の子供たちでグループを作つて、あなたの本を勉強し、それを生かすつもりです」

今日、一般の子供たちの関心は宇宙にあります。一つだけ忘れてならないことがあります。アメリカは人工衛星を打ち上げる予定だと大いなる声明をすでに出している事実があります。しかも一個だけではなくて沢山打ち上げるでしょう。

われわれが大気圏外へ進出するにつれて、ガリレオが彼の時代に持ったのと同じ状態におちいるでしょう。ガリレオが望遠鏡を作つて天空をのぞいたとき、子供の頃から教えられてきた天国は存在しなくて、別な惑星群があったと言っています。ただちに彼は押さえつけられました!

彼は老人になるまで研究を続けることはできましたが、完全に権力によって押さえつけられてしまい、生きるために、自分が言ったあらゆることを「みな間違いだつた」と言わねばなりませんでした。この歴史的出来事はだれも知っています。

信じようと信じまいと自由ですが、私たちは今日同じ状態にあります。U

FO問題を抹殺しようとしている勢力があるのです。最近私がニューヨークにいたとき、ステイブ・アレンのテレビ番組に私も出ましたが、そのときにある男が私に言いました。「他人に広めるな。われわれはUFO問題全体を軽視するようにと言われているんだ」。その男は、だれがそう言ったかは明らかにしませんがね。

それが政府だったかどうかは知りませんが、政府に目を向けて、そこから真相を引き出そうとしてもだめです。政府は(UFO問題の)真相を握っているのです！

しかし政府は真相を大衆に伝えるわけにはゆきません。まず大衆が教育される必要があるのです。というのは、大衆というものは理解していないものを恐れるからです！もし政府が真相を発表すれば、フランスみたいに敵側になるでしょう。

私はあるフランスの新聞を持っていきますが、フランス政府にはスベース・ピールのことを知らない外交官は一人もいないと書いてあります。

昨年、円盤が数度着陸したあと、フランス人の農民が熊手を持って森へ行き、スベース・ピールを探しました。その結果、彼らはスベース・ピールと間違えて仲間の二人を刺したのです。アメリカでも同じ事が起こるでしょう。ですから大衆は教育を受ける必要があるのです。

若い世代を重視しよう

宗教団体には責任があります！私たちは自分の時代において、かつてないほどの似たような状態に直面しています。人間は二つの道のいずれかへ行くことができるのです。われわれはこれ以上自分自身をバカにしかかかってはいけません！自分をバカにすればするほど大きな危険に入り込むのです。われわれは十字路にさしかかっています。核戦争が起こるかもしれない。現在ソ連が何を考え、どのように行動しようとも、われわれは核戦争と無関係ではありません。

一方、われわれは別な道へ行くこともできます。いわば「天空への道」です。人間が目を空に転じるにつれて地上での戦争の危険は少なくなるのです。というわけは、闘争の状態であろうと調和の状態であろうと、何かを準備するには「統一された思想」を必要とするからです。もはや片隅にいる一人の人間だけを救う時ではなく、核による大破局から世界を救うときです。これが一つの観点です。

もう一つの観点は若い世代にあります。一九七〇年までには五歳の女の子が二十歳になるでしょう。彼らはこれから出てくる世代です。われわれは自分のために生きるのではなく、子供たちのために生きているのです。十五歳

の少年は三十歳になるでしょう。

人工衛星が打ち上げられるにつれてますます的確な情報が得られるでしょう。科学は大気圏外を通じて前進するでしょう。そこに限界はありません。われわれは前進するにつれて必ず向上します。われわれが宇宙空間へ入り込めば入り込むほど、ますますこの大いなる神話的な「天」は遠ざかってゆくでしょう。

われわれにはすでにわかっていることですが、パロマー山の二百インチ望遠鏡に先立って、百インチの望遠鏡により、十五億の恒星や惑星が発見されています。したがってわれわれは、これまで教えられたような天国のような居住地域が見つかるまで遠い彼方へ前進しなくてはなりません。

一方、若者たちは科学に従うでしょう。彼らのために具体的な情報が与えられるでしょう。そうすると十五年間の連続した宇宙探究をやるとすると、一九七〇年までに何が起こるでしょうか？

私は予言者ではありませんが、現在の状態から見ますと、各教会は完全からっぽになることは確かです。

聖職者の責任は大きい

現在あらゆる物事が大気圏外へむかって動いています。われわれはそれによって世界史上最大の文明を築くこと

もできる一方、核戦争によって忘却の彼方へ行くこともできます。

それはわれわれの選択です。そして私が信ずるところでは、人々から最も知識を求められている聖職者が、書かれています。おりに聖書の歴史を認めて、そのとおりの言葉で語り始め、少なくともいくつかの予言の実現があったことを認めるならば、聖職者側から大衆を警告することになるでしょう。すると物事は理解力のレベルに近づき始めて、世界自体の危険や恐怖を排除するでしょう。したがって責任は聖職者たちの肩にかかっているのです！

たとえばあなた方は皆質問します。「なぜアイゼンハワー(大統領)は真相を発表しないのか？」と。私がメキシコ市にいたとき、情報相が私に言いました。「ね、ジョージ。私はUFO問題の新しい情報を入力するたびにそれは翌朝発表できるんだ」と。しかし彼らは完全に自由にそれを公表しません。「しかし」と相手は言いました。「もし私が公表すれば、反対勢力が翌日の新聞に書きたてるだろう。『この男はもはや情報相には適しない。彼は空飛ぶ円盤に乗って飛び回っているんだ』とね。だが私はあんたを通じて活動ができる。彼らはあんたを攻撃するかもしれないが、私を攻撃はしないだろう」

この事は発生したのです。私はメキシコで行った講演のスペイン語のコピーを持っています。アメリカの大使も

そこにいました。

もしアイゼンハワー大統領が(UFO問題の)真相を公開して——彼はその真相を握っているのですが——、来年の選挙に出れば、やられるでしょう。いま彼を支持している大衆そのものによって——。なぜなら(UFO問題を認めない)反対勢力がともに反撃するからです。

どこの国の政府も真相を握っていません。アメリカ政府だけではありません。ソ連は多くの物事を通じて(反対勢力にたいして)かなり屈服し始めました(注—UFO問題の真相を隠すようになったの意)。

もし真相が今公開されたら、大衆はスペース・ピープルがやってきた事に仰天するでしょう！しかしおわかりのごとく政府の首脳たちには立場があります。彼らは全大衆の支持が得られない限り、個人的な標的として顔が出せないのです。

聖職者にも同じことがあてはまりません。知識情報を聖職者に求めるのは人々にかかっています。一牧師は他のだれかの下で働いており、そういう体制になっています。それは組織化された機関です。多くの牧師はすでに発生した多数の素晴らしいUFO事件を持ち出したかもしれません。彼らの多くはよく知っているからです。

しかし彼らは信徒たちがどのようにそれを受け入れてくれるかで悩んでいます。

ます。彼らも大多数の信徒に従わねばならないのです。さもないれば彼らは聖職者としての仕事を失うかもしれません。彼らも生きる必要がありますからね。

われわれはそんなたぐいの世界に生きていくのです。ですからある分野では状況はきわめて重大で、きわめて一般的です。それが意味するところは、人類がみずからを救おうとするのなら、団結して互いを理解する必要があります。それが現在おかれている状態です。例のジュネーブ会議に先立って、アメリカの新聞は四カ国会議で取り上げられるかもしれない議題の一覧表を掲載しました。私はエグザミネー紙に載った記事を持っていますが、それには四カ国が他の世界の人人々に関する問題について討議するかもしれないと述べてあります。彼らは宇宙船とは言わず、「他の世界の人人々」と言っています。まるで「彼らはこの世界に来ているんだよ！」と言わんばかりに——。

もし彼ら首脳たちがそれを討議する意図がなければ、その一覧表の中に含めはしないでしょう。したがって四カ国首脳がその問題を考えてきたという「証拠」はあるのです。

われわれは彼らが宇宙について話しかつていたという別な証拠も持っています。四カ国首脳は、人工衛星として発表しようとしている一宇宙船に関する情報を流す時期について同意している

たにちがいありません。

バイオニアは身代わりになる

アフリカから飛行機でアメリカへ来た一婦人がいます。彼女はあちらで大農場を持つ人です。彼女は実際に何が起こっているかを知るために私に会いに来たのです。そしてアフリカへ帰ってから研究グループを始めました。ですから私たちの運動はすでに世界的に広まっているのです。中途半端なことをするわけにはゆきません。今までは半分しかやっていませんが、これから残り半分を達成して完全なものにします。ここに宗教界が入り込んで来る余地があるのです。

そのときこそ、あなた方が私にむかって、「何を見たのか？ 本当にそこへ行ったのか？ そこには(別な惑星には)本当に人間がいるのか？」と尋ねる必要はなくなるでしょう。そうすると人々はその頃には週末に自宅でそんな日をすごし、スペース・ピープルと一緒に夕食を楽しむようになるでしょう。当面の問題を考えてみますと、これはコロンブスがやってきてこの美しい大地を発見した当時と変わりません。彼もその当時は実際に「信用されなかった」のです。

だから最初にはどこかに身代わりがいなければなりません。バイオニアというものは常にそうです。もつ

とも私は最初の人間ではありませんから、自分をそんなふうに分類しませんけどね。

人がスペース・ピープルとコンタクトした例はぜひぶんあるのですが、その人々はそのことを他人に話すだけの神経を持ちませんでした。非難されるのを恐れたからです。

正直に申しますと、(デザートセンターでの)私の最初のコンタクトのときに、私に同行した四人の人、つまりウィリアムスンと他の人たち(ウィリアムスン夫人とベイリー夫妻)がアリゾナ州フェニックス市へ行つて、ガゼット紙に事件のことを話さなかつたら、私は現在ほどに世の中には知られなかつたかもしれません。

ひとたびその話が知られるや、私は完全に行動力の必要にせまられて、他にすることはなくなりました。人間はあとでひどい目にあうようなことを、いったん言ってしまったら、それをつらぬくほうがよいでしょう。

しかし結果的には物事がうまくいって、この仕事をやる機会が与えられたことや、それをやる力を持つことができて、とても喜んでいきます。私が何か「善なるもの」を残し得る限り、たとえわずかなことしかやれないとしても、それが他人の利益のためになるものならば、私は喜んでそれをやります。

だれしも生涯の時間ははだいに少なくなります。特に私の場合は年をとつ

ているために、皆さん方よりは残りの人生はうんと少なくなっています。ですから、できるだけのことばはやるつもりです。

私が大金を儲けたと考える人もありません。しかし私が最初の著書（『空飛ぶ円盤は着陸した』）で赤字になったことを知られば、あなた方は驚くでしょう。

問題はお金ではありません。お金を持ってあの世に行くことはできません。「他人を助けるために人間はこの世で何がやれるか」が問題です。

〈続いて質疑応答が始まる〉

ジョン・サフラン師（ミシガン州デトロイト市中央メソヂスト教会）

サ「私は今日ここでヘンリー・ヒット・クレインの代理として来ています。彼と私は何かを心から信じていると表明することを今までに全く恐れませんでした。ヘンリーは自分の仕事を失うことを恐れませんが、私も自分の仕事を失うことを恐れませんが、実際、もし私がある物事を「真実」と認めるならば、権威者は明朝私を十字架にかけるために私をここへ引き出すこともできます。しかしあなたに質問をしたい。私が分別のある正気な人間と仮定して——私は空飛ぶ円盤については何も知りませんが、寛容の精神は持っていますし、喜んで知りたい気持ちはあります。かりにあなたが今朝私の立場にある

とすれば、あなたが私たちに信じさせようとしている事柄を、あなたは信ずるとお考えですか」

回答はアダムスキー

「ええ、私がクリスチャンであれば、信ずるでしょう。なぜなら私が述べましたように、それはすべてキリスト教の教義の中にあるからです。私は子供の頃からそれを教えられてきました。私がそれをどんなふうに見ようと、どんなふうと感じようと、あの部分を信ずることになるでしょう」

サ「今朝、あなたが言われたことにもとづいて？」

ア「そうです」

サ「私はカトリックの家に生まれまして、若い頃私はカトリック教会を離れて、自分を無神論者と呼んでいました。二十五歳まで無神論者でした。二十五歳から三十五歳までは不可知論者でした（注|| 不可知論者とは、人間は物質的な物以外、たとえば神その他何物についても知ることはできないと信ずる人）。

私は自分で宗教を体験しない限り、その宗教を受け入れません！ 私は牧師が「神は存在する」と言ったからというので神を信じているのではありません。私はそれを体験したので、同様に私は、あなたやヘンリーやその他のだれかが『空飛ぶ円盤は実在する』と言ったからといって、それを信じません。私はそれを体験する必要のある

のです！」

ア「よろしい。あなたのキリスト教の教義を取り上げましょう。あなたの立場はよくわかります。私もカトリックとして育てられました。私たちは何度も物証を求めます。イエスは言っています。『彼らはシルシを求めなければならない』と。

あなたは、信徒たちがイエスに十字架から離れて自分で証明してもらいたいと思ったときに信徒たちが求めたのと同じ物を求めています。しかしイエスはただ証明してみせるために、そんなことはやりませんでした。あなたは自分の内部にそれを（信ずる力を）持つ必要があるのです。

あなたはかつて不可知論者だったと言いましたね。また無神論者でもありました。しかし私はまだ本当の無神論者に出会ったことはありません。全然ありません！ なぜなら人間は何かを信ずる必要があるからです。同じ神、または教会、何かの宗教を信じないかもしれないませんが、人間は自分を支配しているものを信じているのです。名前をつけて呼ばないかもしれませんが、ある「力」に服従しているのです。その力が自然界、太陽、大気の変化など何であっても、人間は何かの力に服従しているという簡単な事実があります。人間は自分の力よりも大きな力を認めているのです」

グループ）

マ「サフラン先生、どうぞ私たちを誤解しないで下さい。私たちはだれにたいしても信じて下さいと頼んでいるのではありません。私たちはあなたが自分で評価なさるために、私たちが体験したことをお伝えできるのを嬉しく思います。あなたがたと体験されなかつたとしても、そのことは他の人々が体験しなかつたことにはなりません」

アダムスキー

「これは全く幸せなことでもあり、また不幸なことでもありません。しかし宇宙的な土台では、かりにわれわれがイエスのように十字架の苦痛を体験したとすれば、われわれもたぶんそれを生かしたことでしよう。しかしわれわれはそれを体験しなかつたために、それを生かしませんでした。その結果、われわれは二度の大戦をやりましたし、三度目のしかかっています。でも、あなたが体験を待っていると、ときとしてそれは長い先のことになりますよ」

M・E・グレイ博士（ミシガン州アレクサンダー市キリスト教会）

グ「アダムスキーさん。私は長いあいだこの問題の調査研究をやってきました。なので、円盤の存在を信じています。しかし私が今まで聞いてきたお話のなかには信ずることのできないものがあり、しかもそれはいつか起こることだと言われます。私はあなたが話されたことをすべて極力信じたいのです。」

一方、証人もないのに一人の人間だけの言葉を取り上げるといふのは：政府も国の法律も一個人の言葉を認めないでしょう。

イエス自身は自分の教えを人々に認めさせようとはしませんでした。しかもいまあなたの前に集まっているのは、誠実、熱心さ、知性、能力などを持つ男女です。私たちは二つの強力な声を代弁しています。宗教界と新聞界です。私たちは把握し得るこのような「真実」を学び、教えることに生涯をささげています。私たちがここに居るのは、別な惑星から来る訪問者たちに関する真相を知りたいという強い欲求がある証拠です。

この(UFO)問題に関するあなたの言葉を受け入れよと言われる場合、あなたはイエスでさえもやろうとしなかったことをやろうとしておられます。彼は十二人の証人を選び、さらに疑惑を解くために他の七十名の人に十分な証拠を与えています(注||ここでダレイ博士はルカ伝とヨハネ伝の一節を読み上げる)。

そこでお願いしたいのは、二百マイルもある地球の大気圏のふちの向こうへ、私たちがブラザーズの宇宙船に乗せて運ぶように手配をして下さって、それによりあなたとブラザーズの両方を信ずる良きチャンスを与えて下さいということなのです。

彼らがそのようにしてくれるならば、

私たちは人里離れた場所で彼らの宇宙船に乗り込んで、適当な公共場所と一緒に着陸しましょう。そして仲間と共に命をかけてブラザーズが捕まらないように守りましょう。

私たちが宇宙船に乗らない場合、うまい代案としては、あなたと一緒に宇宙旅行をやったという、二人のトップクラスの科学者⁴に証言させるとよいでしょう。その科学者の氏名を明らかにして下さい。そうすればその二人にあなたの体験を証言させることができます。何かの事件を証明するために少なくとも二人の証人が必要なことは、申命記(注||旧約聖書中のモーセ五書の第五番目の書)、民数記(同じく第四書)、コリント書、テモテ書に明確に述べてありますし、国の法律でもそうです。私たちはこの控が健全なものであると認めますし、この提案は論理的で公正なもの信じます。あなたはこの要請を受け入れることによって私たちに今ここであなたご自身の誠実さを証明できるのです⁵。

アダムスキー

「私は次のような根拠でこの要請を受け入れます。私は証拠を持つているのですが、次の理由で条件を限定します。もし政府が——アメリカだけでなく友好国の——私⁶が持っている資料を印刷する許可を与えてくれるならば、私はそれを印刷しましょう。大切なのは、宗教はそれ自体の立場を持っていますが、

市民生活のすべてもそれぞれの立場を持っていてということです。そして市民生活は、だれかが宗教的な観点から何かを証明したいがために危険にさらされてはなりません。何事にも時と場所があります。そしてあなたの方のキリスト教の教義は、いわゆる信仰に根ざした基盤に大きくおかれてきました。私が入手した物体(円盤の金属片)をポケットに入れて持ち歩き、世界中の人々に見せて納得させることは不可能です。われわれは小さなグループを扱っているのではなく、世界の二十五億の人間を対象にしているのです。私はあの金属の分析結果を持っています。分析はイギリスで行われましたが、それは疑惑の影を超えて、アルミニウムの船体であることを立証しています。具合の悪いことに、その分析結果は機密になりました。私は政府のいかなる機密に対抗するわけにはゆかないのです。読みたければここにそれがありますけれども、書物にして出版することはできませんでした。

私がお話してできる多くの情報を持っています。それを公開すれば、毎日、新聞の大見出しになるでしょう。しかし私は名前を洩らさないだろうと思つて私を信用してくれた人々のために沈黙を保ちました。

状況が明らかになれば、あなた方はそのすべてがわかつて言うでしょう。「われわれが証拠を要請したのは早すぎたんだ」と。何事も時期が来るまでできないのです。ここに私がニューヨークで読んだ手紙があります。RCAビルから二ブロックしか離れていない場所です(注||RCAはラジオ・コーポレーション・オヴ・アメリカの略)。これはイギリスから私宛に来ました。こう書いてあります。「私は先週アメリカの一航空技術者から聞いたのですが、RCAの高い地位にある一科学者が彼に語ったところによりますと、現在アメリカ合衆国には、別な惑星から来た人⁷が、千二百人以上もいるということ(注||これは一九五五年代の話で、現在の数字は不明)」。私が最近ニューヨーク州バッファローにいましたとき、私はベル航空機会社の宇宙ステーションとロケットの偉大な科学者であるオーベルトと語り合いました。多くの事を話しましたが公然とは話せない内容です。ただこう言うてよいでしょう。あなた方はまじめですから、皆さん方も望みさえすれば体験を持つことができるのです。しかし何か他のものに自分を導かせる必要があります。人間を成長させた、そして自然から遠く離れてしまった伝統的な古くさい基準に頼つてはだめなのです⁸。

(注||右の「何か他のもの」というのはテレパシクなフィードリングを意味すると思われる)

質疑応答

ジョージ・アダムスキー
久保田八郎 訳

〈連載第3回〉

問35 スペース・ピープルは物質化したり非物質化したりするのですか。

答 いいえ、しません！彼らが物質化や非物質化が可能だとすれば、なぜわざわざ金属製の船体を作ったのですか？このことは採鉱、製錬、金属の合金、宇宙船の建造、乗員の乗り組みなどを必要とします。もし彼らが地球でよくやっていたといわれるような物質化や非物質化の神秘的な力を持つとするならば、右の過程は時間と労力の無意味な浪費となります。

私たちはレーダーによるUFOの追跡や円盤墜落後の調査などから、UFOが全くの「物質的」なものであることを知っています。この点はどうなんに強く強調してもしすぎることはありません。スペース・ピープルは地球上の私たちと同じ肉体と血液から成る普通の人間です。

(注)スペース・ピープルが何らかの方法で光線を遮断して船体や人体を見えなくする現象はあるようだが、この場合は非物質化したのではない)

問36 人間は宇宙の法則とその応用法をどこで学ぶことができますか。

答 私がいま準備中で、この質疑応答

シリーズでも予告しました『テレパシー』という著書(注)日本語版アダムスキー全集第三巻)に私が応用した法則が説明してありますし、ブラザーズ(注)友好的な異星人)が私に語っているのですが、その法則は近隣の惑星群でも住民によって応用されています。

これは普通に認められているテレパシーの教えではなく、人間とは何か、人間はどのような機能するのか、人間の存在の目的は何か、などを説明しています。これらを理解することが本当のテレパシーの解明の基本となるのです。「人間は自分自身を知れ。そうすれば万事が自分に洩らされるだろう」という諺ほどに真実なものはないからです。自然のすべては単純なものです。宇宙の諸法則もそうなのです。

宇宙の法則は地球人にとって目新しくもなければ未知なものでもありません。それは地球の哲学的な教えによって長い時代を通じて伝えられてきました。しかし普通の人にとってこの教えは不可解の雲の中に隠されてしまい、抽象の分野に追いやられてしまいたために、がらくたの山の中に失われてしまった真理の核心に気づいている人はほとんどいません。

次のことを記憶すべきです。「真実の哲学」は万物が存在せしめられた目的に従った生活の科学以外の何物でもありません。そこには永遠の成長と融合があるはずで、分割は絶対にない

のです。

『テレパシー』の著書に返りました。この本を勉強すればスペース・ピープルとコンタクトできるかと私は尋ねられたことがあります。これについては約束できません。発達と成功は与えられた知識にたいする各人の応用にかかっています。すでに『宇宙船の内部』(注)日本語版アダムスキー全集第一巻)『宇宙からの訪問者』中の(第二部)にテレパシーについて少し述べてありますが、それを読んだ多くの若い人たちが、友人とテレパシーによる通信でいちじるしい成果をあげています。

このことは「幼児のようになる」とよって学べという諺の大変すぐれた例証だと思います。というのは幼児の心は、年長者が具体的事実として文句なしに認めている既成概念に汚されていないからです。多くの人にとってはこの「具体的事実」が障壁となつて、既成概念にたいして未知の新しい概念が入ってくるのを妨げます。

問37 現在スペース・ピープルは私たちが発する想念をキャッチすることができるのですか。

答 ええ、彼らは常にそれができます。私の著書『宇宙船の内部』でくわしく説明しましたように、あるグループのスペース・ピープルが私の真剣さをテストし実証した上で、世界の人々に伝えるための代表として私を選んだのは、私の想念をキャッチしたからです。

彼らはまた、彼らの方へ想念を送っている多くの人にも気づいており、多くの場合、彼らは応答しています。しかし私が聞いたところでは、送信するほとんどの人は「コンタクトしたい」という想念を送ることで心が占められているために、「受信局」を設けるチャンスが出てきません。どうみてもテレパシーというのは送信と受信の両方が働かないとコンタクトも実現しないのです。

スペース・ピープルとのテレパシーによるコンタクトに関心のある、あらゆる年齢層の人々にたいして、私は常に次のようなアドバイスを与えています。まず地球上の友人とテレパシーの受信のテストをやってみるのです。自分がすでによく知っている人からテレパシーによるメッセージを受信できないというのに、どうして他の惑星から来た人たちのテレパシーがうまくゆくのでしょうか。

問38 あなたは転生(生まれかわり)説を支持しますか。

答 あなたがどのように呼ぼうとも、明らかに生命の連続があります。生命は永遠であり、永遠とは初めも終わりもないことを意味します。あなたはこの世界かまたは他の物質的な世界で、いままで存在してきましたし、今後も存在し続けるでしょう。

神なる自然は浪費を知りません。自然界のどの面を調べてもその証拠が見

られるはずで、樹木は数世紀を通じて巨大な木に生長しますが、最後には地面に倒れてチリと化します。しかしこのチリそのものが未来の樹木の肥料となりますので、その樹木もまっすぐ強く生長できるのです。

人間の「生命」もこれと同じです。正しく応用されるならば各生命体験は未来の生命にたいして強さと理解力を加えます。

人間が一度だけ生を受けて、現在、世の中で本人が占めている社会的地位に理由もなく置かれ、それから気まぐれな創造主によっていわゆる天国か地獄に永遠に投げ込まれるというのは、罪深い浪費ではありませんか。これではスジが通じませんし進化にもなりません。進化の法則は宇宙の基礎です。

ブラザーズが私に説明してくれたことですが、いわゆる靈魂は、それをあらゆるための物質的な形がなければ、あらわれることができないし、一方、人体も靈魂すなわち「因」がなければ存在し得ないということです。したがって、この世界にせよ他の惑星にせよ人間は死んでから今まで使っていた物質の肉体を離れた後、別な肉体に移り住んで、それにより体験を通じて自己を表現したり学んだりするので。

(注) 靈界は存在しないことを意味している)

問39 私たちがこの世界(地球)でレッスンを学んだあとは、次にどこへ行

くのですか。

答 この質問がどこの惑星かを意味するのなら、それはだれにもわかりません！ しかしあらゆる惑星は宇宙の教室です。ちょうど私たちが学校を卒業し、下級の学校で学んだ知識を卒業用するのと同様に、私たちは惑星から惑星へ、太陽系から太陽系へと進学してゆきます。

宇宙はあらゆる状態の人間にとって多くの学部を持つ広大な学校です。そこには原始的な惑星群がありますし、私たちの地球的な想像を超えてはるかに進歩した惑星群もあります。しかし私たちは最後のにはあらゆる惑星へ行ける可能性はあります。

私たちが地球に関係をもつ必要があるのは、現在のレッスンをマスターして、確かに私たちの宿命である未来をもっと急速に受け継ぐことができるようにするためです。

問40 あなたの言われることが事実であるとすれば、天国と地獄はどこにあるのですか。

答 この二つの言葉は一定の場所よりもむしろ意識の状態にあります。天国と地獄は実在する場所地球以外の大宇宙のどこかに存在すると人間に教えてきたのは、事実の誤った解釈です。

今日多くの人は地球上で地獄の中で暮らしていますが、これは混乱、不安定、分裂などによるもので、このい

れも恐怖、貧困、憎悪を生み出しています。しかしわが惑星は創造主の作品であり、神の創作物です。

人間が自分自身、存在の目的、「全体」にたいする自分との関係などを理解するならば、本人は意識において天国のような自然の状態に目覚めます。そして創造物と自分自身を理解するので、万物にたいして思いやりの心を持つようになり、これは「この上なく幸福な気分ではあるが他にたいしては無関心」という状態を意味するものではないです。それどころか、この理解に達した人は自分に関連して起こってくるあらゆる事に積極的に関心を持ちます。

他人からよせられる非難は気になりません。なぜなら本人は他人はそのレベルでレッスンを学んでいることを知っているからです。この絶えまのない成長と発達は永遠に続くでしょう。また本人は他人の欠点を非難しません。その「欠点」そのものは学ばねばならないレッスンのすぎないものとみているからです。

こうして本人はある行為を善、ある行為を悪と分類しないで、全体が体験を通じて展開してくるものとみなしています。

以上の考え方は、この広遠な線にそって考えたことのない人にとっては受け入れられないかもしれませんが、しかし注意深く見まわすならば、こうした

事実が本当であることがわかるでしょう。ある人はダンスを楽しみますが、別な人はそれを罪と考えます。どちらが正しいでしょうか？ どちらの人も自分が正しいと確信します！ 一人はあらゆる可能な方法で同胞に奉仕することを楽しみますが、別な人は奉仕されることを好みます。一方が正しくて、他方が間違っていると、だれが言えるでしょう。

賢明な人は他を裁きません。本人は全体を神の計画のあらわれとみなし、創造主は自分の創造物のどんな部分でも非難せず欠点を見いださないということを知っています。

同胞とともに平和に暮らすことは、理解と同情の問題にすぎません。私たちが進歩しようと思えば、他人との日常の接触においてだれもが学び応用しなければならぬのは「宇宙の法則」です。

問41 あなたは問21に掲載されたストレイス氏から受け取った書簡が本物であったことを立証できますか。

答 はい。元の手紙と鮮明にコピーされたものには、挨拶の言葉のすぐ上に国務省の公印が押してあります。この公印は何も書いてない紙には絶対に押されません。これは手紙が書かれてサインされた後に押されるものです。

この公印は厳重に警備されています。——そうあるべきですが、というのはこの公印が押してある文書は全世界に

たいして大きな影響力をもつからです。乱雑な使用が許されれば本物だという本来の価値はなくなるでしょう。

したがって特定の人だけがこの公印を使用する特権を与えられています。不法な使用を試みれば、その犯人には即刻重罰が加えられるでしょう。

しかし私の知る限りでは、こんな犯罪は起こっていません。この手紙は本物と認められているからです。

問42 あなたは円盤の大量着陸またはこのたぐいの大事件が起こると予言したことがありますか。

答 ありません！ 私を知っているだけでも、大量着陸の計画がくだされてきたことはないと私がいつも主張していたことを知っています。**問17**で、予見できる未来にこんな大事件が発生し得ない理由を私はきわめて明確に述べています。

ところが驚いたことに、こんな空想的な予言が私から出たものと思われて絶えず流れています。私を疑わせようとしてこの予言を流した情報源は、私が言ったかのように言いふらして喜んでいるようです。こんな噂は全くのウソで、砂漠におけるオーソンとの最初の会見以来、私があびてきた嘲笑に大きく拍車をかけるものです。人間の性質は、特にこの世界では変わりやすいために、偉大な理解力を持つブラザーズでさえも未来の出来事を的確に予言しないと、私は無数といえるほど何度

もくり返してきました。彼らが予言しないというのに、まして私があるような恥知らずになれるわけがありません。

こうしたウソの予言のいちじるしい例が二つあります。当時私は激しく否定しましたが――。それは数年前のシ

カゴの破壊と、地球の住民にラジオとテレビを通じてメッセージを送る目的でカリフォルニア州ロサンジェルスの上空に円盤が滞空するという約束です。

最初の例では私の知っている二人のラジオ解説者に電報を送って、この広く伝わった噂は真実ではないと市民に伝えよと依頼しましたが、どちらの解説者も協力しませんでした。

あとの例では、一九五六年十一月七日という予告された日の二週間前に、一人の解説者が私の手紙を読んで放送しました。その中で私はスペース・ブラザーズはこんな方法で人々と通信はしないと述べておいたのです。

ところが具合の悪いことに、この十一月七日の大失敗は世間に広く知れ渡ってしまいました。つまり私の郵便はそれに関して頭をひねるような疑問を含んでいるというわけです。この特殊なウソの予言はスペース・ピーブルの存在説にたいする嘲笑に輪をかけたのです。そして疑う人はなおも非存在の確証としてそれを指摘しています。

これらの誤った予言は心靈の径路から起こってくるものにすぎません。その径路は事実の基礎を持たないのです。

現実の肉体と血液を持つスペース・ピーブルは、こんな伝達径路を用いていないということ、私はどんなに強調してもしすぎることはありません。

彼らは一定の約束をしません。ちょっと考えてみればわかるはずですが、もしスペース・ピーブルがどこかに出現しようとして計画しているのなら、土地の役人にその声明をするでしょう。彼らは第三者を通じてメッセージを伝えるようなことはしません。

したがってジョージ・アダムスキーから出たと思われる多くの予言類はどうぞ無視して下さい！ 私は断言しますが、もし何らかの予言が出てくれば、私は個人的に宣言を出して、その信憑性について疑惑を残さないようにします。

問43 スペース・ピーブルはみな菜食主義者ですか。

答 いえ。今年の元日すぎまもなく、私は火星、金星、土星、木星、天王星、海王星から来た人々から成る会合に出席する喜びを持ちました。それは友好的な集まりで、主として地球人の日常の問題について討議するためのものでした。食事の話題が出ましたので私もっと明確な知識を伝えてくれと頼みました。この問題について大変多くの疑問がわき起こっていたからです。

彼らの回答は単純明快でした。彼らの惑星では屠殺用に家畜を飼わないのです。彼らは私たち（アメリカ人）の

ほとんどが肉を食べるのと大体に同じ割合で魚を食べます。一方、彼らの肉食は地球人の平均した魚の消費に比較できます。

彼らは地球人の食事を慎重に研究して、地球の現状からみて、彼らが地球に滞在中は大体に週に一、二度肉を食べるならもっと健康になることを発見しています。

彼らが語ってくれたところでは、彼らは通常安い肉の切り身を買って、それを野菜と一緒に煮込みます。これは私が少年であった頃に母がよく料理したのとよく似ています。

彼らはあらゆる野菜を大変好み、豆、ジャガイモなどからおいしいスープを作ります。サラダとして準備される生の果物や野菜は彼らが特に好むものです。もちろん手にはいるときはいつでも新鮮な魚を食べ続けます。

言いかえれば、彼らは食べ物の狂信者ではないと言っています（注：野菜なら野菜しか食べないような人ではないの意）。何かの特殊な食物だけを食べなければいけないと思つて悩む人は、イエスの次の言葉に注意するとよいでしょう。「口に入るものは人を汚さない。口から出るもの（言葉）こそ人を汚すのである」

問44 あなたは他の惑星群で用いられている政府の形態を、地球の各国でも応用すればよいと思われませんか。
答 全然思いません！ 何らかの変化

がうまくゆくまでに、人々はまずそのことを慎重に考えて、それから事前に人々の心を調和させることによつて真剣な欲求を起こさせねばなりません。地球の私たちは緩慢な変化に合うようになつていきますので、法律を作るだけでは効果はないでしょう。

私たちが現在持っている政府は、大変うまく国民に役立っています。地球人はもつと進歩した惑星群の政府に似た一政府のもとで生きられるように、同胞にたいする思いやり深い理解が十分に発達していないということを忘れてはなりません。

彼らの政府の形態は、生きるための法則——地球人にも長い時代を通じて無数の機会に与えられたのですが——は、いかなる惑星でも応用できることを立証するための例として私に説明されました。

地球人は過去の偉大な指導者を深く尊敬するがゆえに、彼らの教えを宗教の世界に秘蔵してしまい、その教えが私たちに生き方を示しているということを理解していません。「これよりも大いなる事をあなた方は行うだろう」というのは一人の大師が与えた約束でしたが、地球人の疑惑と恐怖は私たちにひどい束縛の中に閉じ込めてしまい、私たちは大師の最も簡単な奇跡に近寄ることもできません。

もう一度私たちはこの生きるためのパターンを思い出させられます。あらゆる

る男、女、子供は、自分自身の回答を自分の内部の奥深く求める必要があります。というものは、万物における同じく全体というものはその最も弱いリンク(つなぐ人)と同じぐらいの強さしかないのです。したがつて私たちは、大衆が融和しない限り、世界の各国政府が互いに融和するような態度をとると考えるわけにはゆきません。大衆が分裂と憎悪を続ける限り、彼らはもつと進歩した生き方の準備はできていないのです。

問45 私たちが地球で持っているような競争心がなければ、積極的にやつてみようという気持はなくなるのではありませんか。

答 いいえ。完全な自由がある所に積極性が盛んに出てくるのです。あらゆる人は一つの運命を遂行するために生まれます。私たちの現在のシステムのもとでは、自分の内部の欲求が他のゴールに向けられるかもしれないにしても、最初の考えは日常の必需品を満たそうとして生計を立てることにあるかもしれません。こうした根強い欲求を持たない人間はいませんので、現在、環境によつて人間に課せられている種々の束縛が軽減されるならば、人間は当然自分や全人類の改善のためにそれらを追求めるようになるでしょう。

私は近隣の惑星群の知性の程度を地球のそれに比べて聞いています。そこには労働者、芸術家、科学者、農民な

どがいます。すべての人が良くバランスのとれた文明に必要なのであつて、そのためにあらゆる人が等しく尊敬されていきます。彼らは惑星の諸問題を解決するのに基本的な役割を演じているからです。

毎週数時間だけ働くのが彼らの習慣です。残りの時間は学習、レクリエーション、旅行などにあてます。彼ら自身の世界を広く旅するばかりでなく、わが太陽系内の別な惑星群や、ときには別な太陽系の惑星群へ旅に出かけます。

彼らは遊びの純粋な喜びのために広くスポーツやゲームなどをやります。彼らは自分の技能を完成させるためや、勝つ楽しみのために心からの熱心さをもつてやります。

こんな生き方は退屈でしょうか。私たちの自然の才能を眠らせるよりも、それを生かす余暇を与えてくれることでしょう。人間というものは興味がありさえすれば何かもつとすぐれた物に向かうための刺激を常に見いだすものだということを忘れてはなりません。

大抵の地球人が恐れている退屈さは精神的な未熟さの結果です。こうした人々は自分のためにどんなに多くの時間つぶしの仕事を計画しても、やはり退屈を経験するでしょう。

問46 スペース・ピープルの進歩というのは私たちの進歩と同じ意味ですか。答 そのとおりです。進歩は、創造主

の法則”です。それはどこでも同じ原理をあらわしています。それは永遠なるもので、被創造物のあらゆる面においてはまります。したがつて、ときとして私たちは後退するのうに見えるかもしれませんが、真の宇宙的な意味では進歩しているのです。自分の過ちから学びとるからです。これは個人にもあてはまりますが、国家、文明、惑星などでもそうです。

スペース・ピープルは長い時代を通じて宇宙を旅してきたにもかかわらず、彼らの宇宙船を絶えず改良しています。一九五七年五月、私は彼らの最新型宇宙船(円盤)の処女飛行に搭乗の特権が与えられました。この円盤の直径は『宇宙からの訪問者』に述べた金星のスカウト・シップの約半分です。中心部の磁気柱はなく、床のレンズもありません。こんなものもつと進歩した装置で代えられたのです。

彼らはまた新しい装置を完成させました。それは彼らが想念を送ることによつて地上の人々が起こす反応を画像にすることができのです。これは乗船者全員にとつて最も興味深いものでした。この装置も彼らには新しい開発であるからです。大気圏内を進行するにつれて、自分はいかにその感受力が強くてスペース・ピープルから来る印象に敏感だと思つている私の友人たちの反応を見るのはとても興味深いものでした。(37頁へ続く)

GAP短信

■盛況、東京月例会

東京月例会は毎回七、八十名の会員が出席し、熱気の溢れる雰囲気の中で会長の『生命の科学』解説受講、テレパシー開発練習その他を研さんしている。ひと頃の百名を超える超満員が続いた当時よりは少し減少したものの、真剣な人ばかりが結集するのでセミナー中は静寂そのもの。初めて出席する人は気品のある高次元な集会に驚くという。終了後は近くの上野公園下の大

▲本年の東京月例会。左中、久保田会長の講義。左下、野口静庵を副代表の講義。中、選挙区別講師によるテレパシー練習。右下、夕食会。



レストラン『**聚楽**』三階で夕食会を開催、毎回五十名前後が参加し、和気あいあいたる雰囲気の中に楽しく懇親をくり広げる。そのあと二次会に行く人もある。こうして尽きせぬ名残りを惜しみながら翌月の再会を期して別れて行く。地方の会員の方は一度は出席してGAP特有の醍醐味を経験されたい。

日時 毎月第二土曜日午後一時半より六時まで。会場 上野公園内『東京文化会館』四階大会議室。国電上野駅の公園口下車、改札口の真向かいスグ。会費 五〇〇円。テキストとして『生命の科学』(アダムスキー全集第六巻)

を持参。夕食会 六時半より『聚楽』三階にて希望者のみで開催。会費 各自好みのものを注文し、その代金だけ支払えばよい。平均五〇〇円前後。

■ビデオデッキをGAPへ寄贈

埼玉県在住GAP会員・品野友一氏(35)は二月十六日、新品ビデオデッキ一台(ナショナルマクロロードGTS3)を東京本部へ寄贈された。氏は古くからの会員で現在は東京秋葉原のヒロセムセン三号店店長。同氏に頼めば家電製品は何でも格安で購入できる。店電話(〇三)二五五―二二一〇

■UFOPライブラリー

日本はおろか世界でも例がないというUFOPの資料館が東京にある。品川区東五反田二―一九―一八、光星ビル五階に五十四年九月、わが国の代表的UFOP研究家の一人、荒井欣一氏(62)が設立したもので、国内外のUFOP関係刊行物、写真等数千点とその他の資料でギッシリ。外国からもUFOPファンが多数訪れるという盛況ぶり。館長の荒井氏は久保田日本GAP会長と古くからの知己で、すでにGAPよりアダムスキー全集全七巻を寄贈済。本誌Uコンも毎回贈呈している。

★開館 毎月第二、四日曜日、午後一時より五時まで。入館料 無料。但しウインド内展示の書籍・雑誌の閲覧はライブラリー会員のみ可能。会誌『UFOP&ライブラリーニュース』を毎月発行。送料共年間二〇〇〇円。電話



▲UFOPライブラリー。今、中国人留學生たちによるUFOP研究グループの人々。左から三人目が荒井氏。

■QSLカードで知らせる運動

四国の徳島市に住む会員・長町千砂子さんはアマチュア無線の電話級に合格、交信先に送るQSLカード(交信証)にUコン85号の表紙イラストとシンボルマークをカラーで刷り込み、片面にはUコン表紙裏の『GAPについて』の文を掲げて配布している。これは本部の許可済。知らせる運動の一環をなす巧みなアイデア。

■台湾UFOP研究会会長来訪

去る三月十八日、台湾飛碟研究協会会長・呂應鐘氏と、同会研究委員・江晃榮氏が、わが国UFOP研究界視察旅行の途次、東京駅前日本GAP久保田会長にインタビュースし、二時間懇談した。いずれも台北市の方で三十歳代の熱心な研究者。呂氏はUFOPやノンフィクションミステリー関係の著書を四十五冊も出している著名文化人。江氏は農学博士の学位をもつ大学助教授。中国語ではUFOPのことを飛碟といひ、フェイデイと読む。台湾のUFOP研究熱

は相当なもので、多くの目撃例もあるという。久保田会長はアダムスキー全集一、二巻、Uコン数冊、英文版Uコン等を贈呈。ア氏問題についてはある程度知識がある様子だったが、これで詳細がわかると大喜び。ちなみに江氏

◀左から江晃榮氏、呂應鐘氏、久保田会長。



は日本語が達者。帰国後呂氏から丁寧な礼状、写真、台湾の研究会の機関誌『UFO研究』六冊等がGAP宛に届き、手紙には久保田会長に「ぜひ訪台して講演してくれ。そのときはセミナーを開催する」とあった。

なおインタビュー時には中国からの留学生・吳勝国氏も同席したが、氏によると中国は目下UFOブームで専門

誌『飛碟探索』が四十万部も出ており、政府がUFO研究者や科学者に助成金を出しているという。

■福岡UFO写真展、大ヒット!

三月二十日より二十三日まで開催された福岡支部主催UFO写真展は、会場が中心部目抜通り天神のショッパーズプラザ五階、リーぶる天神「リーぶるプラザ21」という地の利もあって、わずか四日間で計六千二百六人の入場者があり、押すな押すなの大盛況を呈した。事前に本格的なポスター数百枚を市内に掲示、西日本、毎日、読売の三紙が紹介記事を掲載。会場ではスライドも映写し、B5判10頁の案内パンフを配布。支部会員が交替で案内係を

▲大盛況の福岡UFO写真展。



つとめ、大混雑の見学者を汗だくできばき、まさに知らせる運動の真骨頂を発揮した。喜多支部代表の報告によれば、この大成功は十四名の支部会員が渾然一体となって見事なチームワークを演じた結果であるという。詳細な報告書の掲載はいずれ東京本部通信に。

■新潟市でもUFO写真展

今年七月二十四日から二十八日までの五日間、新潟支部主催のUFO写真展が開催される。会場は新潟市の新潟伊勢丹デパート六階「ふれあいのひろば」。新潟駅から徒歩十分。入場無料。会場では毎日スライドも映写。広大な会場(二二〇㎡)なので同時企画としてデパート側による星座教室も開催、

会場にミニプラネタリウムを設置して専門家が説明する。写真展企画準備等で星富治夫新潟支部代表が大活躍を続けている。学校の夏休み中なので大盛況が期待される。

■静岡市で第二回UFO写真展

昨年八月に第一回UFO写真展を開催して大成功を収めた静岡支部が、今夏も八月十四日より十九日までの六日間、市内伝馬町のデパート「ライプアピタ静岡」三階「ライプスポット」で二度目を開く。これまた夏休み中とあって多数の学生生徒でにぎわうこと必定。毎日午前十時より午後七時まで。

■千葉市でUFO写真展

今年八月十五日より二十日までの六日間、東京本部主催で国鉄千葉駅ステーションビル四階のギャラリーにおいてUFO写真展開催決定。本部役員・遠藤昭則と中里信彦の両名が主体となつて準備中。

■大阪支部大会は京都で

今年度の大会は国際的大観光都市・京都で開催に決定。日時は十月十九日(日)、会場は京都駅より車で十分の祇園ホテル(東山区)、夕食会、宿泊もすべて同ホテルを利用。大会翌日は京都市内の名所旧跡を大型貸切バスで観光。詳細は七月発行94号に掲載。会場探しで市内約五十軒のホテルを六名で分担交渉したが、すべてふさがっており、絶望的だったところ、最後に奇跡的に右のホテルが見つかった。



私は別な惑星へ行ってきた!

アダムスキーの主張を裏づける有力な証人の出現とすごい体験の実話

へあなたが使命を果たす場所はあるの青い惑星なのです

本誌は独特な取材網により「驚異の高松市円盤降下事件! (88号)」「円盤に乗った日本人少年(91号)」など、珍しい大事件を次々と紹介してきたが、またも驚異的な体験のスクープに成功、一挙掲載に踏みきった。

体験者はスペース・ピープル(友好的な別な惑星の人々)とひそかにコンタクトを続けてきた静岡県出身の春川正一氏(25歳、仮名)。これは中学生当時の宇宙哲学的思索からスペース・ピープルとの度重なるコンタクト、円盤、母船への搭乗、さらに水星、金星、別な太陽系の惑星への訪問など、驚倒すべき事実の詳細を日本GAP久保田八郎会長に初めて語った本邦初公開の素晴らしい記事である。

対談は本年三月二十日、東京新宿駅前の喫茶店「滝沢」にて久保田会長と春川氏の二人だけで約二時間行われてテープに録音された。事情により本人の氏名は仮名とし、記事中に写真・イラストなどは一切使用しないことにした。

——今日はなるべく詳細にお話し下さ
いませんか(会見はこれで二度目)。あ
なたの体験をGAP機関誌に発表して
もGAP会員中に凝う人はまじない
と思います。むしろあなたのような人
が出現するのを会員の人たちは待ち望
んでいたのです。

「そうですか。とにかく以前の段階で
は、話せばやられるよと彼ら(スパー
ス・ピープル)から警告されていまし
た。なるべく黙っていなさいと最初に
言われたんです。私がコンタクトを始
めたのは十代の頃ですからね。

大体十代でマスコミに取り上げられ
た人たちは、みなやられてしまうん
です。さんざん持ち上げておいて、あと
はつぶされます。そして科学派といわ
れる人たちが機関誌に攻撃文を書きた
りたりしますからね。

でも、現在、私の体験がある程度話
せるようになってきたということは、
上の人たち(スペース・ピープル)の
姿勢が楽になってきたと思うんです。
だけど未来的な状況に関しては以前よ
りもきびしい話を聞いています。

たとえば先日、お会いしてからの帰
途、タクシーの中でラジオ放送を聞い
たんですが、去年の十月に台湾です
で原子爆弾が作られていた事実がす
ば抜かれたというニュースでした。こ

ういうことに対して彼ら(スペース・
ピープル)は非常に警戒しているよう
です。

原爆一個の爆発力は物理的にみてき
ほどの威力はありませんし、宇宙全体
からみれば、原爆に相当するような炸
裂とかエネルギーの移動などはしょつ
ちゅう起こっているわけです。ところ
が人為的に作られた不自然な波動の影
響は強いんです。彼ら(スペース・ピ
ープル)は波動的な面を懸念している
ようです。それによって破壊される
ものが大きいのです。したがって地球
で作られた核爆弾一個にしても、その
爆発による波動は宇宙全体に影響を及
ぼすのだと言っていました。ですから
彼らは原子力にたいして非常に目を光
らしています」

どうやら春川氏は地球上の核爆弾製
造の実態についてよく知っているら
しいが、詳細を話したくないようだ。

星空への想念放射

——あなたがスペース・ピープルとコ
ンタクトを始めるようになった動機に
ついて話して下さいませんか。

「中学二年のときに宇宙的に目覚めた
最初です。当時私は静岡県のある田舎
に住んでいましたが、その前に町場に
住んでいました。そして田舎の山の多
い所へ引越して学校を転校したんです。
そのために町から来た奴というので、

だいたいじめられました。それで当時
私はかなり寂しくて、精神的な不安も
ありましたし、親父は私に唯物的な教
育をし、母は少々テレパシクな面も
ありましたが、宇宙のことには関心が
なかったという、そんな環境でした。
あるとき何かで宇宙に関する記事を
読んだのです。そこで異常に自分の気
持を訴えてみたくなったんです」

明るい澄んだ目付をし、丸顔に微笑
を浮かべながら明快に語る春川氏の淡
々たる口調に恐怖や不安のかけはみじ
んもない。事実をありのままに話す
という態度そのものである。当時アダ
ムスキーのことは何も知らなかったとい
う。

「一カ月間、ものすごく真剣に毎晩空
中にむかって訴え続けました。それは
祈りに似た想念の放射です。星空にむ
かって次のように訴えたんです。

『この宇宙空間の小さな惑星である地
球上で、私みたいな人間をわかってく
れる方がいたら、反応して下さいませ
んか』と。

これはなにか異常な感覚だったかも
しれませんが、とにかく一生懸命にや
りました。

これを続けてからちょうど三十日目
でしたが、その夜も一時間ほど想念放
射をやったのに何も出現しないので、
なにかばあきらめて雨戸をしめかけた
きに、オレンジ色の物体がサインカー
ブを描いて夜空を横切ったんです。

一瞬びつくりして『私の願いが本当
に通じたのかな。これはすごい事だ』
と思いました。これは中学二年のとき
です。」

遊びざかりの中学二年生の少年が、
一カ月間も毎夜真剣に星空へ想念を放
射し続けたということからして、春川
氏が普通の人間でないことを示してい
る。やはり人並はずれた宇宙的カルマ
を持ってこの世に生を受けたのだらう
か。

念するともうこ飛び出た

「それから一生懸命に連日連夜送信
をやりましたね。すると面白いように
UFOがやって来るんです。私の心の
変化がそのまま上空の彼らに伝わるみ
たいでした。

しかし自分の心に何か調子の悪い事
があるとUFOは来なくなるんです。
UFOが来るという感覚、つまり誘導
的な流れが自分のそばにあるという感
覚がなくなるんです。そこで必死にな
って自分の感情を立て直すわけです。
するとまたUFOがやって来ます。

最初は目に見えるか見えないかのレ
ベルでしたが、しだいに大きく見える
ようになり、小型のこれぐらいの物体
が(と言って両手の指で半円形を作り
ながら)接近するようになりました。

降下して来ると最初は乳白色やピン
ク色になったりします。近くに来た

きに『直角に曲がれ!』と念ずると、ヒューッとやって来たUFOが、本当にサッと直角に曲がって飛ぶんです。気が悪いほどに私の心の中と密接に連動して動いているようでした。それで、『何かとんでもない物とつながってしまった』という感じでした。

しかし自分としては楽しくてしようがなく、とどんどん続けていました。

中学三年生になった頃までにはだいぶ大きなUFOを目撃するようになっていきましたが、たとえばこんなことがありました。

ある日、低く垂れ込めた雨雲の切れ目の所を、母船と思われる巨大な物体の胴体がズッと連続して動くのが見えるんです。それがいつまでも切れないんです。よほど巨大な物だったのでしょうか。それを見たときは、いやもう感動の極に達して、至福感に満たされてしまいました!」

テレパシー発現の始まり

「そんなことが続いていたある日、夜十一時すぎに寝たのです。部屋が暗くしてありますので、その状態で目を閉じますと、普通なら目の中もまっ暗になります。

ところが、そのときは目を閉じていても、目の中が煌々と明るいです。ものすごく異常な感じがして最初はびっくりしましたが、その明るい視野の

中に黒い文字がハッキリ見えるんです。七つほどの文字だったのですが、すぐに飛び起きて電灯をつけてノートブックに文字を一字ずつ書き記していったんですが、書き終わるまでその文字が消えないんです。目をつむるとその文字が見えるんです。それで目をあけてその文字を書きます。そして全部の文字を書き終えたら、目の中の文字がフツと消えました。

これは私がテレパシーを受けるような状態になる最初の段階だったわけですね。最初はテレパシーを受ける一方なのです。図形的なものが主でした。

ところがこのテレパシー現象が始まったとたん、いろいろな人間関係が自分の周辺にできてきたんです。科学的な事に興味のある人とか、いまままで私とつきあいのなかった人と妙なことで知り合いになったりするんです。

すると、その人たちが持つてくるいろいろな科学の雑誌だとか資料の中に、その象徴と同じものがあって、それに関心をもって読むと非常に宇宙的な内容であったり、自分が求めていた事であったりして、結局人間関係でわからせてくれる一つのキーポイントになっていたわけですね。

そういうふうにしていろいろと勉強させられてやってゆくうちに、しだいにテレパシーの文章による送受信ができるようになったんです。

具体的に何かの文章をノートブック

に書いておいて、それをジーツと眺めていると、それがスペース・ピープルに伝わるのです。そしてそれにたいする応答が返ってくるのです。そういう段階に入ったわけですが、その段階は短くて、それから直接コンタクトに入っていました!」

最初のコンタクト

「ある日、日曜日のことですが、学生ですからどこかの本屋さんへ行こうかなと思っていました。ところが昼頃になったら異様なフィーリングがわき起こってきた、家の中においてはいけない。静岡市の町の中へ出て行こう」という衝動が強く起こってくるのです。心臓がときめくほどのフィーリングです。これは言葉では表現できない状態です。それで出かけて行って、静岡市内の繁華街をぶらぶらとシヨーウインドーを眺めながら歩いていました。

すると前方から一人の人物がやって来たのですが、その人へ視線を移したら他の物が見えなくなりました。まるで私がその人の方へスツと引き込まれるようなフィーリングでした。最初は距離がかなりありましたが、それでもその方向へ気が集中するんです。それで私はその人の方へスタスタと歩いて行きました。

その男の人は見たところ、普通のビジネスマンのスタイルで、赤系統のネ

クタイをしめて紺の服を着ていましたが、その服も近くで見ると、糊をかけたというか、ズボンのスジもピシィツとしていますし、いまクリーニング屋さんからおろした三つ揃いを着ているというような服装です。

第一印象は非常に清潔そうなタイプで、何でだろうなと思いました。すると相手は私の方をめぐって歩いて来るんです。私はそのままではぶつかりますから、よけようとしたところ、その人はその方へ来るんです。また反対の方へよけたら相手もそちらへ来ます。それを二回くり返したら、相手も私に関心があるんだということがわかったものですから、私はすぐにテレパシーで「宇宙から来ている人たちなのですか? 宇宙の方なのですか?」と尋ねましたら「そうです」と相手は言葉を発してハッキリ答えるんです。これにはびっくりしました!」

春川氏は当時を思い出して楽しそうに笑う。それは全く無邪気な笑い声である。聞いている編者も楽しくなってくる。

何もかも知っていた異星人

「やあやあど相手は私の肩を軽くたたいてくれて、『ちょっと行きましょう』と私をうながして地下街へ降りて行きました。

地下街には静かに話のできる植物が

沢山おいてある蒼苑そうえんという喫茶店がありましたので、そこへ入って二人でいろいろ話をしたんです（注||この喫茶店は地下街のガス爆発以後はソエンと店名を変えて現在もある）。

私はそれまでの不思議な体験について話したんです。それがみなその宇宙から来た人たちのなせる業わざなのかと思つたわけです。そうしたら相手は、『それは何月何日のことですね。何時何分頃のこと、こういう形のUFOだったでしょう?』と言って、みんな知っているんです。そのとき物体に乗っていた人と私しか知らないはずの出来事を全部知っているんです!

これには驚いてしまいました。最初は少し警戒する気持があつたんですが、話すうちにそれは消えてしまいました。相手の話というのはこうです。『とにかく現在の地球の状態をわれわれは非常に危惧している。しかしわれわれはあなた方地球人を取り足取りして最初からテストの答を教えて干渉したくはない。ただしヒントを与えて、うながすことはできる。その方法しかない』。そのときは二時間ばかり話して別れました。それ以後、入れ替わり立ち替わりして、四年間のコンタクトで全部で六人のスペース・ピープルと会いました。なかには女性もいました。『最初のコンタクトはいつ頃のことですか?』

「そうですね。中学三年生の卒業間近

の頃でした。それ以来あの人たちからずいぶん多くの事柄を教わりました。あるとき『地図を持っておいで』というテレパシーがあつたので、地図を持って行きますと、その地図にあちこち丸印をつけてくれて、『その場所を覚えておきなさい』と言うわけです。

それで何かのときにその丸印の場所へテレパシーで送信しますと、またテレパシーで反応が返ってきます。つまりその場所に彼らの拠点があるんです。そして、日本でどれだけのネットワークで彼らがどのように動いているかについて、その機構を全部教えてくれました。

その内容はすごいものでしたね。一九七〇年代は九州の阿蘇山に拠点があつたそうで、それ以外に富士山と北海道にも拠点があつたということでした（注||現在は違う。念のため）。

阿蘇山の拠点は七〇年代がすぎてからすぐに引き揚げてしまいました。そのあと、あそこは火山活動が活発化しています。最近は××県とか△△県、〇〇県などに拠点があるようです。

そういう場所へ想念を送る技術に長じると、常に日本中でどこにUFOが飛んでいるかが、わかるようになります。何月何日にどこその上空をUFOが飛んだのは何の目的であつたかわかるんです。面白かったですねえ、とにかく」

春川氏はまるで人間レコーダーらしい。

これからみるといわゆるUFO研究界なるものは全くの群盲象ぐんめいしやうをなせる状態にあるようだ。

他の惑星のすごい文明

——先程の話にもどりますが、あなたがコンタクトされた六人の方は、みな日本人タイプですか。

「いや、一人は背の高い金髪の白人タイプです。その方は非常にこまやかな印象のする人で、ほかの人は大体に百六十五センチから百七十センチぐらいです。まあ普通の身長ですね。

面白いのは髪の毛はいつも散髪したばかりというようなきれいな状態で、モミアゲなどはピシヤツと切つてありました。皮膚はツルツとしていて、ヒゲは見当たらなかつたと思います」

これはアダムスキーの記述と一致する。スペース・ピープルはヒゲが生えないで、顔の皮膚はツルツとしているというのだ。

——女性の方にも会われたということですが、それは日本人タイプですか。「ええ、日本人タイプです。髪は黒かつたし、身長は女にしては少し高めで、百六十五センチ以上はあつたでしょうね」

——その六人の方々はみな金星人ですか。「いや、金星人が三人と水星人が三人です。最初に静岡市の地下街の喫茶店で

会つた人は水星人です」——じゃ、水星もかなり文明が発達しているわけですね?

「いやもう、すごいものです。私は水星へ連れて行かれたんです。ものすごくきれいなドームが沢山ありました。そのドームはいわゆる虹色で、貝殻かきがらを陽にかざすと七色に光りますね。ああいう状態で輝いているんです。つまり外側からは大体に乳白色に見えるんですが、家の中へ入りますと、内部から外は全く何もみえないように透けて見えるんです。あれは不思議ですね。

それからドアーなどはスライド式と観音開きの二種類あるんですが、UFOの機中にも二種類ありましたが、基地の建築物の構造にも二種類あつたのを知っています。ところがどちらにしても、いったんドアーが閉じると継ぎ目が見えなくなるんです。これはものすごく不思議でしたね」

これもアダムスキーの説明と一致する。ここらあたりで痛感した。アダムスキーは実際の体験をそのまま描写したのだ。

「それと室内の照明ですが、こんなふうになんと言つて、喫茶店の壁を指さしながら）ポーツとしたあいまいな照明で、ギラギラした明るさではないんです。それで光源を探しても見当たりません。ただ天井全体がポーツとやわらかく照明されているだけなのです。これも不思議でした」

「いや、金星人が三人と水星人が三人で

——その頃、アダムスキーの体験記は読んでいなかったのですか。

「全然読んではいませんでした。読めといつて人からすすめられたんですが、なぜかアダムスキーだけは読まなくてよいというフリーリングがありました。それでそのまま自身自身の体験を積み重ねてきたんですが、アダムスキーを読んだのは、ごく最近のことです。アダムスキー全集の第一巻などを読みました。書店で見つけて読んだのです。それでアダムスキーという人は、こんな事を言っていたのかと、初めて知ったわけです」

——別な惑星へ行ったのは水星以外に他の惑星がありますか。

「水星と金星、それにカシオペアの方向に存在している惑星へつれて行かれたことがあります。それは全く別な太陽系に属する惑星です。」

そこは植物がどでかいんです。びっくりしました。昆虫や動物なども大きいんです。蜂もこれぐらいの大きさのものでした（と言って春川氏は両手で径十センチほどの輪を作る）。面白いことに蜂に針がないんです。

バラに似た植物がありました。それもトゲが全然ないんです。だから植物は外敵から自分を保護しようという本能を全く忘れて進化したという感じがしました。

その惑星の人間は大きくて、身長は二メートル前後です。その人たちは

金髪の白人タイプで、すごくいい感じでした。みな映画スターみたいな人ばかりです。顔だちもきれいに整っていました。

建物なども一枚の紙をぐるぐる巻いたような不思議な形の建物があるんです。大昔のバベルの塔のような螺旋状の形です。私には何もかもが夢のような世界でした。

それで私はスペース・ピープルに質問してみました。「なぜ私をこんな惑星につれてきたのですか？」と。

すると、この惑星は以前は地球と全く同じ段階の時代があった。そして理想的に進化したケースなのだという回答でした。それで、「地球の未来もうまくいけば、あのようになる可能性は今でもあるんですね？」と聞いたら「それはある」と答えました。このときは最も嬉しかったですね」

使命を果たす場所は青い惑星

「ですからスペース・ピープルとのコンタクトが進むにつれて、地球という惑星がすごく嫌になる過程がありました。なーんだい、こんな低劣な世界がというような思いが起こって、地球人がすごく嫌になった時期がありましたね。」

そしたら、その惑星へつれて行かれた直後に、そのことを言いましたら、スペース・ピープルは言うんです。

「あなたが使命を果たす場所は、あの青い星だ。あの大地だ。わかるでしょう？」

そのときに、ああやはりそうなのかと思いました。青い星というのは地球のことです。相手はさらに言いました。「あなたはあの青い星で楽しくすごせるようにならないといけないんだ。あんたから子孫が広がる。それが千年もたつたら何千人にもなっているよ。その人たちの生き方をあんたが今つかさどっているのだから、あんたも重要な存在なのだ。一人だから何も出来ないと思うな。あんた一人から始まるものは時間がたてば非常に巨大なものになる」

そこまで全部計算に入れているらしいんですね。子孫が何代まで続いて、どのような子孫系列になって、どういう仕事をする、ということまで読んでいて、そこでコデイネットするというわけです。これは私が生まれる以前のことからそうなんです。それはきつと全部わかってるんだと思います。

ですから私がスペース・ピープルとコンタクトするようになった動機は過去世の問題だと思ふんです」

すると、あなたは過去世では別な惑星の住人だったのでしょうかね。それはどこの惑星ですか。

「それは今お話ししたカシオペアの方向に存在する、私がつれて行かれた惑星のようですよ」

——それから次に地球へ転生して（生まれかわって）きたというわけですか。「ええ、そのようですね。カシオペア座の方向を目指して、それこそまっすぐに飛んで行く光景を船内で見せてくれました。小さな窓もありますし、スクリーンもあります。スクリーンにはすごくきれいな画像が映りました」

光をねじ曲げるすごい技術

「彼らは光を扱うすごい技術を持っています。一人が私に言いました。『あなたの友人が十人並んでいるとしよう。われわれは端にいる二人だけにUFOを見せて、他の人には何も見えないようにする技術があるんだ』」

これは錯覚を起こさせる技術ではなくて、二人だけに光を感じさせるようにコントロールするんです。

大体に光というものは進行中に直角に曲がるものではありませんが、彼らの技術によると光線を直角に曲げさせることが可能なのです。ですから長さが一キロメートルもあるような大母船でも、人間の目に全く見えなくすることができんです。それは簡単な技術です。こつから進行してきた光の粒子を、そのエネルギー量を計算して、全く同じものをコピーして反対側から出してしまふんです。すると光はあたかも何物もない所を通過したかのよう進行しますから、だれが見ても肉眼

では何も見えないわけです。

その他にも面白い技術を私は知っています。たとえばUFOが空中に雲を発生させて、いろいろな形の像を作ることができるとです。たとえば女神の像みたいなものを作ったりしますが、そんなことをときどきやるんです。面白かったですよ。

大きなアダムスキー型円盤の雲を作ったり、空中に文字を描いたりしましたが、ああなると一種の芸術ですね」
 そういえば編者自身も某所で円盤が作り出した雲により壮絶きわまりない光景が夜空に展開してキモをつぶした経験がある。これもその「空中彫刻」の一種なのだろう。

「彼らスペース・ピープルは物質の根本的なものを全部把握しているという感じがしますね。」

地球人の科学は発想が間違っているということですよ。根本的に考え方を変えないと把握しきれない部分があると聞いています。

特に光とか電波などがどうやって空間を伝わって行くかということ、もつと科学の目を向ける必要があると彼は言っています。

磁場においては単極磁気というものがあるんだそうです。つまり磁気というものはNSの両極があるように言われていますが、単極で存在する磁場があると聞いています。これは空中にもいつぱい存在しているんですが、それ

はものすごく高度な回転運動をしていて、ほかのN極やS極とまじわらないんです。しかしそれにある一定のエネルギーをインプットすると、ある方向へエネルギーをずっと伝えてゆくらしいんですね」

春川氏はこれ以上のことは自分にもわからないと言うが、なにか重大な示唆を含んでいるようにも思われる。

偽コンタクティの横行

——あなたが乗った円盤や母船はみな金星のものでしょうか。

「いや、金星のものと水星のものがありました。乗った回数は多かったですね。地球から出た経験が十四五回ありました。」

円盤の中ではほかの地球人と同席したことがありましたから、全国的に、いや、世界的にも乗った人は多いんじゃないですか。ただ乗った人はみなそのことを言わないんじゃないかなあ。

それからみますと、アダムスキーさんは大変な勇気を持った方で、精神的にも強かったと思いますね。円盤などに乗った人たちがせっかく体験を発表しようとしても、つぶされてしまますからね」

——そうそう、へたをすると殺傷されるかもしれないですね。

「そうなんです。実際、私にも不快なことがあったんです。最初の直接コンタ

クトが始まった頃に、それこそ黒ずくめの服装をしたメン・イン・ブラックともいべき連中が私の周辺に出現しました。どこかにいるんです。そしてわざと見えるような場所に立っているんです。これは私にとってすごいプレッシャーになりました。遊びに出かけても、たとえば喫茶店で人と話をしていても、ひよいと窓の外を見ると、街角に二人の黒ずくめの男が立っていて、こちらの方を見上げています。それだけでも精神的にひどく恐ろしいのですが、しかしこの頃はそういう連中の姿は現れなくなりましたね。最近はその連中の方針が変わったんじゃないかと思っています。

つまり彼らは(メン・イン・ブラックは)やり方を効率的にしたのでしょうね。UFOを大衆に信じさせなくするには情報操作だけでも充分だということがわかってきたらしいんです。

だからコンタクトマンにたいして神経質にならなくても、偽物のコンタクトマンを沢山つくって、メチャクチャな情報を流させれば、気違い扱いされてジッパヒトカラゲに社会の表面から消えてしまいます。

最近マスコミで扱われている自称コンタクトマンのなかには、作作的にあやつられている人がかなりいますね。

スペース・ピープルは地球人のだけですが、私には偽物はすぐわかるんで

す。UFOの写真一枚を見ても、それが本物のUFOかトリック写真はテレパシーでわかります。波動による印象で全部わかるんです」

続いて春川氏はいま話題になっている外国の二人のコンタクトマンの名をあげて、二人ともまっかな偽物だと断言した。そしてその内の一人に関する非常に興味深い裏話を語ってくれたが、ここでは省略しよう。日本人の直感力もつとすごいと思っていたが、この二人を支持する人が日本にも少なからずいるのは残念だと春川氏は言う。

重要なオーラ透視能力

——波動によって本物が偽物かがわかるというのは、物体または人体から発するオーラのことですか。

「そうです。オーラです。スペース・ピープルと直接コンタクトする段階に入った人は、オーラによって相手が本物の宇宙人か偽物かが識別できるようになっているんです。偽物ならばスペース・ピープル特有のオーラは見えません。ただし人間の発するオーラの色を正しく見分けるには相当なテクニックを必要とします。インスタント的に図鑑を見るようにパタパタと見るといってわけではありません。こちらの気持の状態と相手の気持の状態のからみで色が出てくるんです。そこが非常にむづかしいですね。」

ですからオーラ透視能力者が何人かいるとして、ある一人の人間の色を見ても、見る人によって色が違う場合があります。これは観察される人がいろいろな側面を多くの色であらわしているからです。

たとえば一人のオーラ透視能力者がだれかのオーラを見たとして、その人のパワフルな面に感応ししやすい体質を持つていたとしますと、その面の色彩を強く見るんです。その場合、強烈に輝く赤いオーラが見えたりします。

だからオーラ透視能力者は心の状態を中立にして、とらわれのない無心な状態にしますと、だれが見ても同じに見える基本的な色が見えるんです。したがってオーラを見る技術は非常にむづかしいんです。ただ見えさえすればよいというものではありません」

——初めてオーラが見えるようになってのはいつ頃ですか。

「直接テレパシーを受信するようになった段階に入ってからです。急にパーツと見えるようになりましたね。」

そのときは少々精神的なバニック状態になったんです。たとえば喫茶店で一個のコップを持ち上げて、以前にそのコップを持ったことのある人たちの感覚が伝わってきたりして、いろいろなテレパシーの初期段階が始まったわけです。

最初は精神的にかなり苦しくて、いろいろな超能力者とか巷の祈り屋の所

にまで見てもらいに行ったりしたものです。まあ、霊障、だとか何とか言われましたがね。私は納得できませんでした」

春川氏は当時を回想して明朗に笑う。「この時期は自分自身との闘いでもありました。でもそのうちに、そうした能力を発現させたり引つ込めたりすることが心のスイッチの操作でできるようになってからは、すっかり楽になりました」

急に姿を消す技術

「その心のスイッチのきかないピーク時には、ときどきレポート的な現象が起こったことがあります。最近も少し気持の落ち着かなくなつたときに東京駅で発生しました。これは証人がいるんです。」

その人はコンピュータの技術者で、一緒に歩いていたら、階段の所で私自身の姿が突然見えなくなつたというわけです。彼はキョロキョロと私を探しているんですが、私自身は彼と一メートルしか離れていない所に立っているんですけれども、彼には全く見えないらしいんです」

——それはどういう原理によるのですか。

「たぶん私の精神的な力で光をコントロールしたのだろうと思います。スペース・ピープルはこんなことは朝飯前

にやっていますよ。光をシャットアウトすると何も見えなくなりますからね。

この技術は心靈現象と間違われる傾向がありますから、完全に分けて考えないとだめです。ただ現象だけを見ると非常に似ているように見えるんですね。そこがポイントだと思えますね」

——そうしますと、だれかが町を歩いていてスペース・ピープルらしい人を見かけたので、その方へ接近しようとする、急に相手がパツと姿を消したというような報告がときどきありましたが、そういう現象は実際にあるわけですね。

「ありますよ。私にも何度かあったんです。私に会う役目を持っていない宇宙人を偶然に町で見かけることがあります。私はオーラが見えますから、それで本物の宇宙人ということがわかります。独特なシルバークゴールドのオーラです。非常にきれいでして、雑踏の中でも際立って輝いて見えます。」

そこで「あつ、あそこにいる！」と思つて接近しようとする、使命の違う宇宙人は私に会うのを避けるんです。それは私たちコンタクトマンに接触すると危険にさらされるからです。それを知らなかつたものですから、あるとき地下街で一人の宇宙人を見つけて、あとを追いかけたら、相手は角を曲がったとたんにパツと消えてしまいました。まるきりだだびろい場所ですが、ちよつと視野からはずれた拍子に消え

たんです」

マイナスイメージを プラスの想念に変える

「彼らは言っていました。『これはあくまでも科学の延長上にあるものです。あなた方でもやれるのです。それを信じてやりなさい。夢や理想ではありません。たしかにあなた方地球人は私たちの業を夢か理想だと思おうでしょうが、それをそのままにしておかないで、現実の世界に引つ張り込まないでだめです。それがあなた方の進化のポイントなのです。今まではそれをサボつてきたわけです。将来的なものにしても今マイナスのものが沢山あることは現実の問題としてわかつているでしょう。核の問題、食糧の問題、大気汚染の問題など、いろいろあります。しかも地球の文明自体の方向の間違ひもあります。そうしたマイナスのビジョンを保持の上でどんどんプラスに変えてゆくことです。まずそれからやりなさい。」

まず意識の段階から、プラスになれば、何か一つの物を見ても（と言いがらテーブル上のトマトジュースの入ったコップを指さして）、この中にはプラスの要素とマイナスの要素が必ずあるんです。どんなひどい物の中にもその要素はあるということです。

ですから、もしこのジュースが毒でもあつても、ある時期が経過して、ある

エネルギーが加われれば、これは完全にプラスの状態に変化するはずで。この場合のプラス・マイナスというのは電気のあれとは違って、人間の進化にとって役に立つか立たないかという意味です。

ですから今ここに何かマイナスの状態の物が存在するとすれば、それを無視しないで、どうすればそれがプラスになるかということに常に考えることが必要なのです。そして絶対にこれはプラスになるんだという理念を持つのです。

特に人間にたいしてはそうだとおっしゃいましたね。どんなにひどい奴でも、どんなにメチャクチャな主義主張を持っている人でも、その人はいつか絶対プラスになるんだというこちら側の信念を持つことが大切だと聞いています。しかし地球人はそのテクニクが非常に下手だということです。地球人はマイナスだと考えるだけでワーツと騒ぐから戦争になったりするわけですね。そこがむづかしいところだと言っていました。

だから他人を責めてはいけません。核爆弾にしてもそれをなくせばよいというわけではなく、根本になる心のエネルギーを元から絶たないとだめだというわけです。

このような考え方は徹底的に指導されました。

だから単純な善悪の観念で他人を裁

くことは絶対にいけないと言われています。他人の善悪について考えるときは、常に『これでいいのかな、これでいいのかな』と思っていないとだめなんです。しかし相手が悪くなろうとするパワーが強すぎるとこちらが負けてしましますから、こちらもよほどパワーフルである必要がありますね。つまり強烈な信念を持つという意味ではないか。

「以上が彼らと出会って教えられた最も素晴らしい理念（哲学）だったと思います。」

それ以前、私はひどく神経質だったのですが、そのためアレルギーが出て、赤面症で発汗症もありまして、ひどかったのです。でも荒行をやつてすぐく変化しました。

肉体の波動の差

——金星へ行かれたのは、いつ頃ですか。

「最初に金星へ行ったのは高校二年の夏のことです。金星も夏でしたね。」

春川氏は夏休みはどこか地方の行業地へ行ったかのような口ぶりです、事もなげに語る。円盤に乗り込んで出発した地点については詳細に言いたがらないが、私には見当がついた。私も知っている着陸には絶好の場所だ。その他、いろいろと大ざっぱな地名を教えてください。

れた。

——円盤で出発したのは夜ですか。

「夕方です。電車やバスを乗り継いで出かけますと、テレパシーによって一定の駅やバス停で降りたくなくなるんです。そしてあとは歩くんです。そして最後に寂しい場所へ行きます。すべて上空からテレパシーで誘導されます。」

円盤や母船には何度も乗りましたが、乗るたびに体の中を風みたいなのがスーッと突き抜けるような感じがしますね。体にたいして変調というか、何かを処置するんでしょうね。

一度ある事があって、円盤に入ったとたんにゲーゲー吐いたことがあるんです。すると小さなポリバケツみたいな容器を持ってきてくれました。この中に戻しなさいと言います。

ところが面白いことに、その容器に液体が入っていて、その中へ吐くと急に中和されて透明な水みたいになりました。これにはびっくりしました。

吐いた原因は何だかと思ふかと聞かれて、わからないと答えると、普通は円盤に乗る前から肉体的な変調を与えるための処置をやるのだということですが、それをやらずに乗せたので吐いたということでした。

つまり私たち地球人の肉体の波動と彼らスペース・ビープルの肉体の波動の差が非常に大きいので、その差の分だけ私の体の中に浄化作用が急激に起

こるために、体の中がおかしくなったと言っていました。それだけ開きがあるわけです。

写真を見ても想念波が届く

そういう処置を何度もくり返して受けるうちに、オーラを見る力が強くなりましたね。

オーラというのは面白い性質があつて、オーラの強い人と弱い人が一緒にいると、両方が同じ強さになろうなろうとするんです。だから強い人のオーラは弱い人の方へパワーが流れて行って、弱い人が強くなるんです。

宇宙人や UFO が地球人の前に容易に姿を現さないというのは、その原因もあるのではないのでしょうか。つまり見たり会ったりした瞬間にすごい形でエネルギーの交流が始まると思うんです。だから彼らの方から地球人の欠損部分にたいしてパワーが吸い取られるというか、何かそういう現象があるのでしょうか。

だから写真に撮るにしても、そうだと聞いています。他人の写真も撮つてそれを持つということは、その写っている人間自体をイメージとして描くことになり、念じやすくなります。するとその瞬間にエネルギーの交流が始まるというわけです。

ですから「地球人が UFO の写真を撮るといふことも、私たちからすれば

大変なことなんですよ」とスペース・ピープルが言っていました」

これはUFOの写真を見る地球人の想念波がそのUFOに送られることになるという意味だ。次元の高い想念波をあげせられる乗員にとっては、たしかに大変なことだろう。

アダムスキーの夫人メリーが金星に転生して一少女の姿でアダムスキーと再会したときも、写真を撮られたくない理由として同じような説明をしていた(アダムスキー全集第3巻『死と空間を超えて』を参照)。

円盤の操縦はイメージの応用

——円盤や母船の内部についてアダムスキーは図面であらわしていますが、やはり同じようなものですか。

「ええ、全く同じです。中央に太い磁気柱がありました。ただし現在はいくつかの改造型が出ているようですね。

私は円盤の操縦をやらせてもらったことがあります。私が驚いたのは、円盤の操縦盤の所にあるスクリーンです。私はその前に立ちます。そしてある一定のパターンを心の中に描いてその想念をスクリーンに送るんです。

あるレベルの想念をそのパターンに向けると、スクリーンに一定の形が現れます。するとスイッチがオンになります。ですからある程度のイメージを正確に描く力がないと円盤は動かせま

せん。

そして自分の意識の段階を高めていって、違う図形のイメージを描きます。本当にクリアな段階に意識を高めないと円盤は作動しないんです。

ですから円盤は操縦者の心の一挙一動に連動して動きますので、まるで自分の肉体の一部みたいな感じがします。これはすごいものです。

私はアダムスキータイプスカウトシップの中に一人で乗せられたことがあります。そしてスクリーンにむかって菱形のパターンのイメージを送れと言われました。ところがなかなかうまくゆかず、四角になったり三角になったり、グニャグニャになったりするんです。

そこで無念無想の状態になりましたら、丸い図形がグーツと菱形になりましたね。そのスクリーンのかたわらには小さいテレビのような物があって、そこに映っている映像は私が乗っている円盤を母船が撮影してその映像を送ってきたもので、要するに私が乗っている円盤を外側から見ているようなものです。それで円盤の動きがわかります。

ところがスクリーンの図形がうまく現れないときは円盤がグラグラ揺れています。菱形になるとスワッシュと正常に動くんです。

だからスペース・ピープルの意識レベルはすごく高度なのだなあとはいま

したね」

ミラクルワードとミラクルイメージ法は正しかった！

——とにかく心の中でイメージを描く力が重要なわけですね。

「全くそのとおりです。宇宙人から教わったのですが、『いまあなたが現実の生活の中で、こういう物を入力したい、こういう生活をしたと思えば、その物のイメージを心の中で描きなさい』と言っていました。それをしよつちゅうイメージして、紙に描いたりして、しよつちゅう言葉にあらわして言っている、というのです。

地球人の悪いクセとして何人かで話をしているときに往々にしてとりとめないグチ話になります。それは地球人のレベルだから仕方がないとしても、ただしグチ話の最後に『だけど必ずこれは良くなるんだ！』という言葉をつけ加えるといい、と言っていました。『その心遣いだけでも応用しなさい』と言っていました。そうすれば生活は見違えるほど良くなりますと言っていました」

——それは私たち日本GAPのグループで、すでに応用しているんです。何かの悪い物事を良くしようと思えば、『良くなる、良くなる』という言葉は何度もとなえ続けるんです。これを私はミラクルワード(奇跡を起こす言葉)と名づけてすすめています。そして何

かを実現させようと思えば心の中にすでに実現してしまつたイメージを描くんです。それをミラクルイメージと名づけてやっているんです。ずいぶん奇跡的な実例が沢山ありますよ。

「えっ、そうだったのですか！」

春川氏は驚いて目を輝かした。GAP内のことはほとんどご存知なかったとみえて、氏がスペース・ピープルから教わった方法をすでに実践しているグループがあつたとは思ひもよらなかつたらしい。やはりアダムスキー哲学は宇宙的なもので、間違つてはいなかつたのだ！

氏は続ける。

「ですから、この理論を応用して地球の沢山の人が地球の良き未来像をイメージしながら『地球は本当に素晴らしい世界になる』とやればいいんですよ。世の中を変えるのは国や企業などではなくて、人間個々のイメージなのです。このことがわかってくれば地球は変わるんです。

いまの若い人たちは未来にたいするビジョンが何もないですからね。それで私の使命として、その人たちを啓蒙する仕事をやっています。

しかしGAPがそんなことをやっておられたとは嬉しいですね」

氏は本当に嬉しそうに微笑し、安心したような顔をする。氏は誠実そのものであり、実際にスペース・ピープルから教わった精神改善法を何とかして

一般人に伝えたいという意欲を明確にあらわしているのだ。

金星の素晴らしい実態

——ところで金星の状況について少し話して頂けませんか。アダムスキーによればドーム型の家が多いそうですが「そうですね。ドームが多くて、外側から見れば虹色に見えますが、中に入ると外部が透けて見えるんです。マジックミラーみたいなものです。」

家の移動は自由にできます。ですから家がそのままクレーターみみたいな所にすっぽり入って、あとは脇から土がモリモリと盛り上がってきて、家を包んでしまう光景も見ましたね」

——金星人は東洋人タイプですか。「いや、外人タイプの人が多いですよ。でも東洋人タイプの人もかなりいますね。日本人もいましたね。地球から運ばれて金星で働いているんです。かなりの数の日本人がいましたね。日本語を話すものですから驚いて聞いてみますと、生まれは日本だと言っていますよ」

——その人たちが金星へつれていかれたというのは、どういう理由なのでしょう。

「それに関してはよくわかりません。私もかつて金星へ移住することで決断をせまられたことが一度あります。移住すると地球の戸籍は抹消されますし、

親も家族も本人がいたというのをみんな忘れてしまおうんだそうです。そういうふうなコントロールするようですね。」

私の場合は金星に移住できるレベルにあつたらしいですね。たしかに一時期はすごく高次元になっていました。そのときに選択をせまられたのです

が、いろいろ考えた結果、私はやはり地球で住みますと答えたんです。地球が私の大地ですからと言いましたら、金星人はニコツと笑って去って行きました。それから直接コンタクトに入っていたんです。

地球から金星へつれて行かれる人は大体に孤児とか身寄りのない人が多いようです。これは金星でそんな人から聞いたことです」

——そんな人もやはりテレパシーの能力があるんですか。

「ええ、あります。すごいレベルですよ。金星で生活できるということは金星人と同じレベルに達しているんです」

同じ質のものは集まる

「というのは、宇宙には法則が三つしかないといわれは言っているんですが、それは(1)物事はくり返す。(2)同じ質のものは集まる。(3)物事はほぼ相対的な性質をもって成り立っている、というわけです。」

人間関係もこのとおりなのだそうです

して、みんなワイワイ騒いで戦争をやったりしますが、実際は戦争をやっている敵も味方もレベルは同じで同質結果集まるのです。仲間というものはみなそうなんです。何か等しい面があるから集まるわけです。」

ですから、先日も話しましたように私が久保田先生に会う時期を感じたというのは、何らかの「質」があるからで、それが直感的にわかるんです。いま会うべき「質」があるか、会う循環というかサイクルが来ているかどうかということが、すごくテレパシーでわかるんです」

春川氏は話題に尽きることなく雄弁に語り続ける。そして土地の持つ波動などについて説明をする。それによると、宇宙的な波動を帯びた土地と、そうでない土地との差があるらしい。

したがって円盤がよく飛来する土地というのは、そうした波動と関係があるようだ。また円盤はある特定の鉱脈の存在する土地にもよく飛来するといふが、これはその鉱脈から発する波動またはエネルギーと関係があるという。したがって春川氏が他のコンタクト

マンの人たちと顔を合わせると、みんな特殊な石を持っているという。氏自身もスペース・ピープルからもらった石など合計五十個ぐらいつけていたが、ほとんど人にやってしまつて、今は手元に小さな丸い石が一個だけ残っていると話す。もらった当時は暗い所にお

くとボーツと青く光っていたが、いまは光がなくなつたけれども、手に持つと暖かいと言う。

——スペース・ピープルからもらった石で、カットしているのもありましたか。

「ありました。そのカットを研究するために宝石の鑑定勉強をしたこともあります。プリリアントとも少し違って、カットの面が少ないんです。なか理想的にエネルギーが出るようにカットするみたいですね。そんなのを身につけていると、すごいですよ」

ここでアダムスキーが所持していたクリスタルペンダントの話をする。编者自身もアメリカでそれを手に取つてみたが、胸にあてると暖かくなつてくる。彼が昔スペース・ブラザーからもらったという由緒ある品だ。

「彼ら(スペース・ピープル)によりまして、体温が高くなるような感じの石がよいそうですね。つまり石か何かの事物に触れて、体が冷たくなるような印象を受ける物はマイナスなものです。単純にそれで見分ければよいと言っていました。」

何かの事物が身近にあつて、それが良いか悪いかを判断するには、それに触れてみればよいというわけです。そして心を純化させて無念無想の状態になれば、その事物から何かの温度みたいなものが伝わってきます。冷たい感じがスーッと伝わってくるようなら、

その物を身近におくのを避けるようにするんです。これは物理的な温度ではなくて精神的な暖かみ、または冷たさを意味します」

この高さまで登ってきなさい

——彼ら上の方々（スペース・ピープル）は、地球上のUFO団体などどのように評価しておられますか。

「いや、そういう評価や批判は一切やらないんです。（片手を高く上げて）彼らとはこんなにレベルの差がありますけれども、『ここまで来い！』という感じなのです。本当にそうなんです。

地球人がどれだけ自分の心のマイナスイ面をなくして、どれだけ魂の力で伸びられるか、ということにかかっています。彼らは常にパーレベルだけは用意していますからね。

でもそのパーレベルがなくて、何を基準にしてよいかわからない状態よりは、やはり一本のパーレベルがあるだけでも地球人にとつてすごい救いになるはずですよ。たとえば真っ暗な道を歩いているとして、遠く離れた位置に一個でも豆電球が光っていれば、それはすごい救いになるでしょう。それと同じですよ。

彼らの地球人にたいするアピールはほんとに豆電球ぐらいの明りにすぎないかもしれませんが、しかし偉大な救いだと思いませんね」

このあと、地球のUFO研究界のことやら、教育問題、イエスと釈尊の話などが延々と続いた。そして他人の病気を癒やす方法にも及んで、病人のそばに黙って微笑しながら座っているだけで相手の病気が癒やされるのが本場の奇跡的治癒だとスペース・ピープルが語ったという。そこまで強力な波動を発するような人間になりたいものだと春川氏は笑いながら語る。

その他、古神道、円盤群の動向、政界の内幕、ある結社の問題など、氏は驚くべき情報を次々と展開する。

UFO研究は人間研究だというのが編者の持論だが、こうなるとUFO問題は世界の歴史の流れに重要な関連があるといえるだろう。したがってUFO研究は地球の歴史研究となってくる。それほどUFO問題は深遠な要素を帯びているのだ。

春川氏の該博な知識とすごい情報量にはこれが二十五歳の青年かと驚嘆のほかないが、これも過去世からの宇宙的カルマによるものなのだろう。

しかし読者にとつて羨望や落胆は禁物である。だれでも氏のようになれる偉大なパワーと英知を自身の内部に秘めているのであるから、スペース・ピープルに出会うことを考えるより前にまず自身の内部の秘めたるパワーに出会うことが先決といえよう。このパワーをアダムスキーは「宇宙の意識」と呼んでいる。

春川氏によると、氏が会ったスペース・ピープルは日本GAPの活動をきわめて高く認めているという。そして久保田会長はもつと多くのプレーンをつくるとよいと言っていたという。この場合のプレーンというのは、単なる補佐知能集団ではなく、自分の宇宙的な生き方や態度によって他人の生き方まで変えてしまふ、いわば他人を救える人の集団である。

編者付記

春川氏の話しぶりは、何かを恐れて言葉を選びながらポツリポツリと語るというようなものではなく、一気呵成に語り続けるという状態である。すでに自分の体験している事柄を今まで他人に充分に話せなくてウズウズしていたところ、その吐け口が眼前に出現したので、思いきり打ち明けたというふうにも見えた。もちろんこれは氏が編者を信用してのことであり、また氏が言われるような「同質の何か」を感じてのことであろうから、編者は心から感謝し、全身を関心のかたまりにして聞いていた。そして氏との会見がGAP活動にとつて重大なエポック・メーキングな出来事になるらしいと感じたのである。

氏は詳細に説明しなかつたけれども、この会見と本誌による公開は今後のGAP活動に大いなる意義を含んでいると思われる。

それにしてもテレパシーとオーラ透視力の開発の重要性をあらためて読者は認識されたと思う。これらの能力は宇宙的活動を推進する人には絶対に必要なものであって、そうした面を全く無視してかかるUFO研究とでは大差が生じることがこれでわかると思う。オーラ透視力とは波動感知力である。

また「科学的」を標榜することは基本的態度であつてしかるべきだが、浅薄な科学知識でもつてUFO問題を解明しようとする科学派を自任する人々の狭量なUFO観や貧弱な宇宙論などに良識ある人々が惑わされて、せっかく宇宙的なカルマを築きつつある状態を喪失する例が往々見られるのは遺憾である。

春川氏によると、氏が地球から母船で金星まで飛行した所要時間は約一時間余だったという。この超絶した科学力を地球人が理解し、そのレベルに到達するのはまだ遠い未来のことだろうが、いつかは地球の科学もその段階に達するものと編者は確信する。

以上はアダムスキーの体験、春川氏の体験がすべて事実であるという前提にもとづいた意見である。そして編者の見解として、このいずれも事実であったのだと編者自身の特殊な体験に照らして明言しておきたい。

春川氏の身元に関する問合せは一切遠慮されたい。できれば次号にこの記事の続編を掲載したいと考えている。

「GAP幸せカプルの集い」開催のお知らせ

日本GAP会員同士で結ばれた幸せカプルが一堂に会して楽しいパーティーを開催することになりました。該当カプルの方はぜひご出席下さい。夫婦共会員でなくても、一方が会員で両方共GAPに熱心なカプルであれば出席できます。お子様づれ大歓迎。必ずカプル(夫婦)でご出席下さい。一人だけでは出席できません。このパーティーは縁結びの要因である久保田先生と、多数のカプルの仲人をされた野口敬治氏ご夫妻に感謝の意をこめて行うものです。シンプルの方はご遠慮下さい。

日会	6月8日(日) 午後1:00→3:30
会場	東京駅丸の内側南口構内「精養軒」2Fホール
料金	1人 ¥4,800(記念写真代は別途 ¥800) お子様は無料。
申込先	宿泊も安いホテルをお世話します。 会場には乳幼児を寝かせる場所を準備します。 〒276 千葉市葛城1-8-11-404 ☎0472-25-0413 遺藤昭則(実行委員) 申込メチ 5月20日

※日本本部副出席者:久保田二郎先生(会長)、藤芳史氏(司会)、田中正氏(会場改善)、松村芳之氏(写真撮影)

UFOを見る

鹿児島市 曾我部くみ子

嬉しさあまつお便りを差し上げます。先日十月二十日、日曜日のこと、家族とともに宮崎の日南にある飯肥城下町のお祭りを見に行った帰りのことです。汽車の待ち時間が一時間あまりもあり、待合室が満員だったというところもあって、私たちが飯肥駅の真向かいにある喫茶店に入りました。私は道路に面した窓際のほうに座り、注文したものがくるまで本を読みふけていました。

しばらくしてから隣に座っていた母が「あらあら、あれは何ね、あれを見てごらん」と言いだしたので、私はとっさに窓越しに上空を見上げました。私が見たときは大きな二階建ての家に隠れて、それはまだ見えませんでした。

四、五秒くらいたつてからでしようか、家の間からスwoopと銀色に光る楕円形の物体が波を打つように飛び姿が目に入りました。距離はわかりませんが、何かしら重みを感じさせないフワツとした感じでした。

その瞬間に「UFOだ」と直感しましたが、あまりの突然のことなので、どうしていいのやら、ただボカんと眺めていました。時間にして約八秒ほど窓から見える範囲で見えました。あとで考えたらお祭りの風船か何かだろうと思ったりしたのですが、風船だったらあんな飛び方はしないだろうと思いました。飛行機は真っ直ぐにスwoopとけむりを出して飛ぶはずだし……でもフィーリング的にUFOだったと思います。実はその前日に「UFOコンタクトク

線との間に上下左右に飛行する物体があった。三つ。銀色に輝いていた。教会をあととすると、やがて心地よく高揚感に満たされ、気分が充実してきた。プラザーズが祝福して下さったのだろう。

再びエジプト。夜、光と音のショーのラストで、まばゆく光る流星が観客の眼前に現れたとき、私は一瞬花火と思った。まわりの欧米人たちもよくできた演出とみた。しかしあれは宇宙花火だろう。そういえばピラミッド上空の三日月も不思議なくらい美しかった。

この旅行では飛行機、バス、船、電車と陸海空を移動して、「乗ってないのはUFOだけや」という今西正子さんの言葉どおりであった。最後に解散するときは寂しかった。

従姉妹の死

名古屋市長 高原登茂子

二月十四日のパレンタインデーの日に、一歳年上の従姉妹が急死しました。十五日に葬儀に飛んで行きまして、これで七回目の体験ですが、今回ほど感動したことはありませんでしたので、ホットなうちに文にしてみました。

告別式は集会所でした。着くとすぐ家族が彼女にお別れの挨拶をしてくれと言うので私は顔をのぞき込みました。これはもう立派に役目を果たした住家だわ。私には彼女の体が粒子の集合体に見えました。そしてきれいに化粧のしてある顔に触れた途端、彼女が新生を得て確実に歩みだしているという強烈な印象が体を貫きました。私はすっかり安心したと同時に、だれにたいしてというわけでもなく純粹に感謝の想念が腹の底から沸き起こって来ました。私は用意された席につき、会場と参列者を眺め、なんて美しいお葬式なのだろうと思つてから、手を合わせたくれた宇宙の意識に感謝しました。とりすがって泣き叫ぶ友人達を不思議な気持でほんやりと見ていました。ところが彼女の父親は取り乱すどころか、最後にこう言ったのです。

「皆さん、至らなかつた娘のために大勢お集まりくださいまして有難うございました。いろいろと本人も努力してまいりましたが、それでも彼女なりに精一杯生き抜きましたこと、私は盛大な拍手を送つてやりたいと思います。ただ三十一年間はあまりにも短すぎます。どうか皆さんはこのようなことのあるやうに、故人の分も合わせて幸せに長生きをしてください」

健闘を祈る

米カリフォルニア州 毛麒麟

UFOコンタクトクティイ九十一号と英文版を御送付頂きました。厚く御礼申し上げます。熱心に拝読しております。

小生の自己紹介をさせていただきます。一九八二年二月生(大韓民国)。一九四三年京城歯科医専卒、日本厚生省歯科医免許。一九四九年ソウル医科大学卒。韓国陸軍軍医を七カ年奉職。一九七九年八月三三年まで日本国群馬県津温泉中央病院歯科に勤務致しました。アメリカ永住権者でありまして、全家族ロスに住んでおります。

この体験と言葉のおかげで、嘆き悲しむ人々の心も、残された二人の子供も、その子を抱いて「ぼくがと母さんを殺してしまつたんだ!」と陰で泣いていたご主人のことも、私がそこに存在した理由も、すべて深い理由とともに私の内部に大切にしまわれたように思いました。また人間一人の存在が、こんなに重要であつたのかと改めて思いました。

UFOの編隊出現

横浜市 横浜市 熊沢田鶴子

いままでの私を振り返つてみますと、本当に縁とは不思議なものだということを感じさせられます。特にGAPとの出会いがそうです。小学校の低学年の頃に初めてUFOの編隊を見ました。真っ暗な夜空に十個ぐらい赤や緑に光り輝く丸い光が点滅しながら、編隊もくずさず、音もなく、西から東へゆつくりと飛んで行きましたが、それが星ではないことを物語っていました。

子供の頃、テレビでアダムスキー氏のことが出た番組や、氏の撮影したUFO写真の映像をよく見ていた覚えがあります。二十歳の頃、雑誌でGAPのことを知りまして、内容がよくわかりませんでしたので、入会はしませんでした。その間私の勤めていた工芸芸店の前が書店でその店の店長が私を気に入って下さつたおかげで、久保田先生の訳されたアダムスキー氏の書籍を次々と手に入れることができて、ようやくGAPに入ることができました。この店長の縁も不思議です。いろいろ苦しい事などありましたが、GAPのおかげで道を踏み外すことはありませんでした。そして昨年ようやく長い試練の年から抜け出すことができました。それを決定づけたのは昨年の大きな地震のときです(後略)。

友星隣人との宇宙哲学、コンタクトクティイに関してひたすら熱心に勉強しております。今後ともよろしくご指導をお願い致します。久保田先生の御健康と御健闘をお祈り申し上げます。

60年度 大阪支部大会

●昭和六十年十月六日(日)
●神戸市 須磨観光ハウス
●出席者 四十三名

大型の台風二十号が大会前日突然進路を変えて素晴らしい天気恵まれ、まさに奇跡的な快晴日の大会となった。今年の大会は六甲山を背に神戸港が一望できる落ち着いた雰囲気の中で



保田先生をお迎えして開催された。

齋藤康美の司会で始まった大会はまづ先生の「アダムスキー問題の意義」と題する講演から始まった。いつものがらの迫力に満ちた力強いお話により場内のフィードバックは最高であった。

庄巻は、「地球上ばかりでなく全宇宙の平和を希求せよ」とのご講話で、自己の意識を拡張することの重要性を説かれ、目の覚める思いがした。

その他宇宙的フィードバックを起こして万物を祝福し、他人に良い影響を与えること、私たちのGAP活動は非常に微々たるものであるけれども、決して失望することなく、少しでも輪を広げていって全世界に影響を与えるようにしなければならぬと述べられて、全員かたずをのんで聴き入る。全く中味の濃い素晴らしい大会であった。

夕食会は終始なごやかな雰囲気につつまれ、話がはずんで尽きることなく、気がつく朝の三時だった。

翌日は観光で鉢伏山に登り、展望台から神戸を一望する。最高の眺めを楽しんでいると、突如一機の円盤がまるで祝福するかのよう出現して私たちの方へ飛来した。これは最高の贈り物であった。

素晴らしい講演をして下さった久保田先生、遠路をご出席下さいました方々、支部会員の皆さんに心から感謝する次第である。事情により大会の報告が遅れて申し訳ない。

平塚和義

第7回 松山支部大会

●三月二十三日(日)
●松山市 シャトーテル松山
●出席者 七十六名

前日からの悪天候が大会開始頃には暖かくなり、すっかり春らしくなった。この日会場は七十六名という空前の大盛況で大会は始まった。

野島哲浩の重厚な司会のもとに最初に講演された久保田先生は、宇宙的に進歩するという自覚のもとにミラクルワールド、ミラクルイメージをもとにした正しい実践法により向上を図ること、相手が必ず良くなるという理念を送ること(それが祝福の意味)の重要性を力説された。ついで先生は円盤や母船に乗せられて水星や金星に行った体験を持つ青年(GAP会員ではない)が出現したことや、国内で蒸発した人々の中には他の惑星につれてゆかれた人が相当数いることなどを話された。

このあと松山事件の主人公でアブラハムの子といわれた天中董氏が全員注視の中を講演された。氏は天性のこだわりのないひょうひょうとした野人の風貌ときさく言葉で参加者を魅了した。円盤に乗せられたときの体験や、青年時代の思い出話は興味しんしんしたものがあった。

大会のあとは全日空ホテルで夕食会

を開催し、先生を中心に歓談の輪を広げ、アトラクションなどを混じえて盛況だった。特に出席者全員が互いに握手を交わしながら挨拶してゆくアイデアは初めての試みだったが大好評を博した。

翌日は市内観光に出発し、伊予路の春を楽しんでいた。お世話になった久保田先生と天中董氏、出席されたすべての皆様に支部一同心から感謝申し上げる次第である。

伊藤達夫



ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳 全7巻 B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必携の名著です。

1. 宇宙からの訪問者

338頁 ¥2500

2. UFO問題の真相

262頁 ¥2500

3. UFOとアダムスキー

350頁 ¥2500

4. 宇宙哲学

148頁 ¥1300

5. テレパシー開発法

190頁 ¥1800

6. 生命の科学

205頁 ¥1800

7. アダムスキー論説集

370頁 ¥2500

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。1952年11月20日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第I部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第II部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす重要なもの。

第1巻の補足的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第II部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの卑劣な妨害が克明に描写されている。

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第I部「死と空間を超えて」がI巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたぼう大な情報と書簡類を収録して第II部とした。

人間のセンス・マインド（肉体の心）と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理路整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の4官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシクな印象を受感する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話をを行う技術を述べた、類書の全く存在しないガイドブック。

アダムスキーが他界する数年前に出したScience of Lifeと題する12分冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な一大金字塔で、真実のテレパシーと心霊的な霊界通信の相違を明確にし、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演がI巻。第II部にはアダムスキー研究者として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を収録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

※送料は各巻¥250。但し発行所宛直接注文の場合に限り、下記のように定価・送料をサービス。

- ☆1冊注文＝送料は出版社負担。書籍代のみご送金下さい。
- ☆第1巻より第3巻まで一括注文＝特別セット価格 ¥7000(送料共)
- ☆第4巻より第7巻まで一括注文＝特別セット価格 ¥6500(送料共)
- ☆第1巻より第7巻まで一括注文＝全巻セット価格 ¥13000(送料共)

郵便振替または現金書留でご注文下さい。

文久書林

〒113 東京都文京区西片1-19-10、西片ハウス2F ☎(03)813-9561 振替/東京4-2521

英文版「UFO contactee」No.2刊行中

■60年7月に刊行したNo.1は世界のUFO研究会で絶賛を博しつつあり、長い伝統を誇るイギリスのUFO専門誌Flying Saucer Review誌、イギリスGAP機関誌ニューズレター32号、デンマークGAP機関誌ufo contactその他が記事を転載して激賞している。また多数の欧米UFO研究グループと機関誌や情報交換のルートを確認し、日本GAPは名実共に東洋最大のUFOと宇宙哲学研究グループとして一躍脚光を浴びるに至った。

■第2号も日本GAP・久保田会長が執筆した格調高い英文記事により、A Japanese Boy Who Went Aboard A Flying Saucer!、How To Produce Miracles、1985 GAP-Japan General Assembly その他の記事を満載。会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを駆使してオフセット版下を作成。デザイン、レイアウトから1字1句に至るまで会長が熱意をこめて作ったこの国際的文献をぜひお読み下さい。英語学習用にも好適。

B5判 12頁 最上質アート紙使用 ¥300(送料¥170、3冊まで¥240、10冊まで¥350) 注文は郵便振替で下記へ。切手代用も歓迎。
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎(03)651-0958

A Japanese Boy Who Went Aboard A Flying Saucer!
by Hachiro Kubota

"Fact is stranger than fiction" is never more true than when listening to Mr. Warabe Anasaku's story of his own incredible experience of boarding a flying saucer. In the light of this, UFO might be more frequent than any other social events. After all he is probably the only person in the world to have visited Egypt not by plane but by a flying saucer!

A Strange Young Man Appears
One night in the summer of 1960, a two-year-old boy named Warabe was in bed in his house located in the suburb of Matsuyama, Ehime-ken (prefecture), Japan when suddenly he was filled with a happy frame of mind and a warm feeling. His thought he heard someone calling, "Come out, my boy!" One of the house (traditional Japanese houses in the country at that time were used to be open in summer because of very sticky weather) found that there was a tall young man standing by the house. The stranger was a white man with golden hair and wore a long white robe in the manner of a samurai. With a gentle smile he said in standard Japanese, "Let me hold you, boy." Then he took a stroll with Warabe around the village for a while. After that he walked the boy home and disappeared. While walking, the little boy was very happy because there seemed to be much human warmth in the young man.

Every summer the strange tall man appeared near the boy's home from nowhere and called out to him by using mental telepathy. Warabe took great delight in going out with the man, for the stranger had already become a good friend of his. Warabe did not know his name, so he called him "Uncle". Sometimes Uncle gave the boy such rare gifts as a watchdog which was a great novelty then, and a small metallic box on which a certain design was carved. It was a triangle just like a gravestone on the surface of the box, and on each oblique side was a snake climbing up.

A Large Round Object Standing on the Field
On the night of August 2, 1960, an annual festival took place in the precincts of the shrine where the young white man used to take a walk holding the boy. The two-year-old boy went out with his family to enjoy the festival, wearing a yakuza (informal Japanese) summer kimono and putting on geta (Japanese wooden clogs). After the ceremony ended in a lively way at nine o'clock at night, Warabe returned home and went to bed.

While he was lying in bed not quite falling asleep, he felt again someone calling him gently, "Come out, my boy!" No sooner had he heaved the voice in his mind than he woke up and cheerfully went out to his yakuza. The man was standing there with a gentle smile.

Uncle was about 200 centimeters tall with hair cut short like that of young girl. His complexion was white like a Caucasian, having clear-cut features and large eyes. In addition, his skin was so smooth that the boy found no traces of a mole or freckle. Uncle was wearing the same long white dress and white shoes.

He said, "Come along with me, my boy." Warabe answered with real delight, "All right," and walked with him at ease. They walked continuously past by the shrine and the grass until they came to a large field.

下記以外に本年度は次の各支部大会が企画されています。東京総会(9月21日)、大阪支部大会(10月19日)、福岡支部大会(10月26日)、仙台・山形合同支部大会(11月2日)。詳細は次号以下掲載。

〈予告〉61年度地方支部大会〈その2〉

	第6回 新潟支部大会	第8回 静岡支部大会	第1回 長野支部大会
日時	4月29日(祭) 午後1:00→5:00	5月4日(日、3連休の中日) 午後1:00→5:00	5月25日(日) 午後1:00→5:00
会場と交通	「ホテル・やまざわ」 3F大広間(和室) ☎0258-32-0106(フロント) 新潟県長岡市殿町2-3-9(国道17号線沿)長岡駅より徒歩5分。駅前通りを直進し、ボン・オーハシのある交差点を左折すると見える白い建物。東京からは上野→長岡間上越新幹線あさひ号で1時間半。60年10月からは関越高速自動車道も開通している。	「静岡ステーションホテル」 8F大ホール ☎0542-81-7300 静岡市南町8。 静岡駅南口前、徒歩1分。東京駅より静岡駅まで新幹線こだま号で1時間半。新大阪駅より2時間半。いずれも途中乗換えなし。	「松本市勤労者福祉センター」 2F第4会議室 ☎0263-35-6286 松本市中央4丁目7番26号 松本駅正面(東口)駅前通りを直進、東京電力社屋の先の大きな交差点の手前を左折してしばらく行った左側の建物。徒歩約10分。東京新宿駅よりL特急「あずさ」号にて松本まで2時間50分(1時間おきに発車)。
会費	¥2000(希望者のみ全員記念写真代¥800を別納、グランドキャビネット、送料共)	左に同じ	左に同じ
プログラム	司会 足立亘宏 1:00 支部代表挨拶 星 富治夫 1:10 講演「スペース・ビープルは存在する」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:40 全員記念撮影・休憩 3:10 全員自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※質疑応答に際しては当日行われる先生の講演内容に関する質問を最初に用紙に書いてお受けしますので、この機会を有効に活用して下さい。	司会 高梨和明 1:00 支部代表挨拶 野口敏治 1:10 講演「スペース・プログラムの実態」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:25 休憩・全員記念撮影 3:00 自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※今回は久保田先生を囲んで話し合いに徹した家族的雰囲気になった大会にする予定で、珍しい話も出ると思われますから、多数ご出席下さい。	司会 中村公一 1:00 支部代表挨拶 博田文喜 1:10 講演「宇宙哲学を生かして奇跡を起こす方法」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 休憩・全員記念撮影 3:00 自己紹介・質疑応答 5:00 閉会 ※松本は久保田先生が戦時中、この地の陸軍航空隊に所属しておられたゆかりの地。41年ぶりのご訪問なので先生も張り切っておられます。多数ご参加下さい。
夕食会	大会終了後6:30より8:30まで同ホテル2Fの別室にて立食形式の夕食会を開催します。 会費¥3000	大会終了後6:00より8:00まで同じホテルの同じホールにて希望者による夕食会を開催。 会費¥5000	大会終了後6:00より8:00まで松本駅前「ホテルニューステイション」1Fラウンジ「白馬」にて希望者による夕食会を開催(立食形式)。 会費4000
宿舍	「ホテル・やまざわ」をお世話します。 シングル ¥4800(税込) ツイン ¥8000(〃)	「静岡ステーションホテル」をお世話します。 シングル ¥4800(税込) ツイン ¥9500(税込) 和室(2人)¥9500(税込)	「ホテルニューステイション」(松本市中央1丁目1番11号☎0263-35-3850)をお世話します。 シングル ¥5500(税込) ツイン ¥8800(〃)
申込	夕食会、宿舍、観光の申込はハガキで4月27日までに下記へ。 〒946 新潟県北魚沼郡湯之谷村井口新田572番地、星 富治夫 ☎02579 2 5562	夕食会、宿舍、観光の申込はハガキで4月末日までに下記へ。 〒422 静岡市西島304-9、野口敏治 ☎0542-86-7729	夕食会、宿泊、観光の申込はハガキで5月20日までに下記へ。 〒399-07長野県塩尻市広丘吉田948 4、博田文喜 ☎0263-58-8510
観光	大会の翌日は数千本の吉野桜が咲き乱れる桜の名所・悠久山(ゆうきゅうざん)公園を散策します。時間の余裕があれば眺望の素晴らしい八方台まで足をのばす予定。 10時出発。 費用¥1000(昼食代別)	大会翌日は希望者で静岡、清水方面を観光。富士山の見える港〈清水港〉を船で遊覧。4月オープン予定の全国有数規模の静岡美術館を見学。朝10:00ホテル出発、午後4:00静岡駅着、解散。 費用¥3000(昼食代共)	大会翌日は松本市内観光。ホテル朝10:00出発。松本城その他名所旧跡を見物しながら市内を車で周遊。そのあと足を伸ばし初夏の安曇野(あづみの)を散策。午後3:00松本駅解散。 費用¥1000(昼食代別)
備考	4月の月例会は平常どおり20日(第3日曜)に行います。	5月の月例会は大会のため中止。	5月の月例会は大会のため中止。

(19頁より)二つの例だけで、その友人たちがやっている仕事を中止せよという想念に彼らは充分に反応しました。しかし両方の側で、彼らが警戒と不安感の漠然とした感じを起こした理由としては、通過する響き。以外の何物でもありません。こうした実験で何ら

これらの円盤は、母船で輸送されるスカウト・シップと大体に同じ型で作られていますが、輸送船の助けをかりなくても惑星間を航行することができ

ます。彼らの生産物のほとんどはこの新型に合わせられるでしょうが、母船を母体にするスカウト・シップは今後も広く用いられるということでした。しかし乗員たちは地球人が新しい模型飛行機のテストがうまくいって喜ぶのと同じように、この新しい円盤を喜

んでいました。これは注目すべきことです。人間というもののは宇宙のどこでも同じようなものだと思われれます。

(以下次号)

日本GAP企画第8回海外研修旅行

ギリシャ・トルコ・ローマ宇宙考古学の旅

■旅行期間 昭和61年8月6日より17日まで12日間

■参加費用 **¥558,000** (24ヵ月分割払い可)

日本GAPは昭和54年8月に企画第1回目として「アメリカ中米宇宙考古学の旅」を実施して以来毎年世界の謎の遺跡や建造物、名所旧蹟などを見学して多大の成果をあげてまいりました。昭和61年度は第8回目としてアメリカ・メキシコの旅を企画発表しましたが、参加希望者が少ないために1月末急ぎょ行先を変更し、標記のようにギリシャ、トルコ、イタリア・ローマを巡遊する豪華な旅にしました。

この3カ国はいずれも古代の遺跡の宝庫で、必見の素晴らしい場所が沢山あります。まずギリシャはヨーロッパ文明の源泉になったヘレニズム文化発祥の国として名高く、紀元前16世紀からのミノア時代、ミケーネ時代、アルカイック時代、クラシック期、ヘレニズム期にかけて、哲学、文芸、絵画、彫刻、工芸などが完成の域に達し、これが後のローマ帝国に影響を与えて西欧世界へ流れました。今回はアテネの雄大なパルテノン神殿を筆頭に各地の遺跡を見学しますが、特に希望者はエフェソス、ミケーネ、コリントの各遺跡見学の他に、1日エーゲ海の船旅に出て美しい島々を巡遊するという素晴らしいコースが特徴となっています。

一方、トルコは古代のヒッタイト帝国以来、東ローマ帝国(ビザンティン帝国)時代の輝かしい遺跡がイスタンブール(コンスタンティノープル)に多数残り、その後セルジューク帝国、オスマン帝国領になってからのイスラム文化の遺跡も残っています。帰途はイタリアの首都ローマに立ち寄って、Uコン92号に掲載されたサン・ピエトロ大寺院その他の壮大な遺跡を1日たっぷり見学します。順序としては、まずトルコ国内を見学し、次にギリシャ、最後にローマというコースになります。

以上の3国とも大変親日的で治安は良好ですから安心して旅行ができます。またこれらの国は民芸品の生産国として名高いので珍しいお土産の入手に事欠きません。日本GAP独特の家族的雰囲気満ちた手作りの素晴らしい旅に多数ご参加下さい。旅行中はワールドセプトラベル社の幹部で日本GAP東京本部役員の田中正が添乗して業務一切を担当し、会長の久保田八郎も同行して2人で心暖まるお世話をいたします。現地では優秀な日本人ガイドが説明します。GAP会員でなくても参加できますから知人をお誘いの上ご参加下さい。

日本GAP会長(旅行団長) 久保田八郎

	年月日	曜日	場所	時間	交通機関	摘	要
1	1986年 8月6日	水	成田発	17:45	航空機 アリタリア	一路ローマへ。	(機内泊)
2	8月7日	木	ローマ着 " 発 イスタンブール着	07:55 09:55 13:15	航空機	イスタンブール着後、ホテルへ。	(イスタンブール泊)
3	8月8日	金	イスタンブール発 アンカラ着 " 発 カッパドキア着	午前 午前 午後	航空機 専用バス	アンカラ着後専用バスにて鋭く尖った三角形の岩峰が無数に点在する奇妙な景観のカッパドキア地方へ。異様な火山地形と洞穴修道院、巨大な地下都市などを見学。	(カッパドキア泊)
4	8月9日	土	カッパドキア発 アンカラ着 " 発 イスタンブール着	午前 午前 夕方 夜	専用バス 航空機	アンカラ着後緑深い丘にあるアタテュルク廟、石彫をはじめ数々の展示品を誇るヒッタイト博物館などを見学後イスタンブールへ。	(イスタンブール泊)
5	8月10日	日	イスタンブール滞在			終日自由行動。希望者はヘレニズム～ローマ時代にかけて栄えたエフェソスの遺跡を見学。	(イスタンブール泊)
6	8月11日	月	イスタンブール滞在			午前：オスマン帝国の財宝を一堂に集めてあるトプカプ宮殿などの見学。 午後：自由行動(グランドバザールでショッピングなど)	(イスタンブール泊)
7	8月12日	火	イスタンブール発 アテネ着	09:45 10:55	航空機	アテネ着後アクロポリスの丘にそびえる白亜のパルテノン神殿、古代オリンピック競技場その他を見学。	(アテネ泊)
8	8月13日	水	アテネ滞在			終日自由行動。希望者は別途費用でコリントとミケーネの遺跡を見学。	(アテネ泊)
9	8月14日	木	アテネ滞在			終日自由行動。希望者は別途費用で終日エーゲ海の船旅に出る。紺青の海と空、まばゆいばかりに輝く白い家々、古代ギリシャそのままの風土を残すイドラ島、ボロス島、エギナ島など美しい島々を巡遊。	(アテネ泊)
10	8月15日	金	アテネ発 ローマ着	08:00 09:00	航空機	ローマ着後、サン・ピエトロ大寺院、スペイン広場、パルテノン、トレビの泉、コロッセオ、フォロ・ロマーノその他を見学。	(ローマ泊)
11	8月16日	土	ローマ発	12:00	航空機	一路帰国の途に。	(機内泊)
12	8月17日	日	成田着	14:50			

企画:日本GAP/主催:株式会社日本旅行(運輸大臣登録一般旅行業第2号)/販売 旅行代理店ワールドセプトラベル株式会社(運輸大臣登録旅行業代理店業1957号)

Greece, Turkey & Rome

主要訪問地紹介

★**トルコ共和国** アジア大陸の両端に位置するアナトリア半島と、イスタンブールからエディルネの町に至るバルカン半島の一部を含み、面積は日本の約2倍。北は黒海、西はエゲ海、南は地中海に囲まれている。人口は4,600万人で99%はイスラム教スンニ派教徒。歴史は大変古くて多くの国が統治したために遺跡の宝庫ともいえる国だが、おもな歴史としては紀元前1750年から500年間栄えたヒッタイト帝国があり、紀元330年にローマ皇帝コンスタンティヌスがビザンティウムの町をコンスタンティノポリスと改名してから東ローマ帝国(ビザンティン帝国)として繁栄した。1071年にセルジューク・トルコ族が東ローマ帝国を倒してセルジューク帝国を樹立し、数百年続いたあと、1453年に別なトルコ族によるオスマン・トルコ帝国が確立して強大な権力を誇った。近代では種々の変革を経た後に、1923年に共和国になった。そういうわけでトルコにはヒッタイト帝国時代以来の遺跡や遺物が充満しており、見所は沢山ある。住民は大変親日的で、都市部のホテル、商店、空港等では英語が通用する。建築物は完全にヨーロッパ風で、国全体がエキゾチシズム(異国情緒)豊かな魅力ある風土をかもしだしている。

★**アンカラ** 標高1,000mのトルコの首都。古代ヒッタイト族が占有した都市。ギリシャ、ローマなどの統治を経て1923年に共和国成立と同時に新首都となった。近代的な都市作りにより、欧米風のスマートな高層ビルが林立する人口220万の大都会。アタチュルク廟その他見所も豊富。

★**アタチュルク廟** トルコ共和国生みの親である初代大統領ケマル・パシャをまつた神殿。パシャはトルコ大統領に3回選ばれて国の近代化に努力した偉人で、このため1934年に議会はアタチュルク(父なるトルコ人)という姓を贈った。廟は茶色の巨大な石造の建造物。壁には見事な浮彫りで彼の言葉が刻まれ、列柱の奥に黒大理石の墓標がある。1953年完成とともに遺体がここに移された。

★**ヒッタイト博物館** 古代の謎の民族ヒッタイトの文化に関する世界最大のコレクションで有名。旧石器時代から銅器時代までの出土品、カッパドキア文書で名高いアッシリア植民都市からの出土品、その他で満ちているが、圧巻はボアズキョイ、ヤズルカヤから出土したヒッタイトの太陽の円盤、スピリウマス印章、古代ヒッタイト人の石像など。規模はさほど大きくないが展示物はすごく豊富。

★**カッパドキア** アンカラの南東150~350kmに広がる大高原地帯に、ピラミッド型、円錐型、ねじれた粘土の塊のような山、尖塔の上に帽子のような石をのせた岩など、この世の光景とは思えない奇岩・怪石が展開し、見る人のドギモを抜く。しかも1世紀頃の初期キリスト教徒が迫害をのがれて岩窟を掘り抜いて造った寺院、僧院、礼拝堂などは感動的である。カッパドキアは撮影用フィルムがいくらあっても足りないほどの被写体の宝庫。

★**イスタンブール** 古来アジアとヨーロッパの接点になった人口約600万のトルコ最大の都市。1923年までは首都であった。ギリシャ時代の古名をビザンティウムといたが、324年、ローマのコンスタンティヌス大帝がここをローマ帝国の新首都として自分の名を冠したコンスタンティノポリスと名命。以来1453年にオスマン・トルコ族が占領するまで東ローマ帝国(ビザンティン帝国)の首都として栄え、都市名もコンスタンティノブルと呼ばれたが、以後はイスタンブールと改

称されて今日に及んでいる。したがって遺跡としては東ローマ帝国時代のキリスト教関係、オスマン・トルコ帝国時代のイスラム文化を示すものがヨーロッパ側の旧市街地区に多数残っており、観光の一大都市でもある。見所は以下のとおり。

★**聖ソフィア大寺院** アヤ・ソフィアと呼ばれるこの大聖堂は、325年にコンスタンティヌス皇帝が創始したが、現存の建築物は6世紀にコスティニアヌス皇帝が建造したビザンティン建築の傑作。ドームの直径30m、高さ54mという壮大なもので、1453年にオスマン・トルコ軍が占領してから大聖堂はイスラム教のモスクにされた。現在は博物館になっており、修復された初期のモザイクの傑作群が見られる。

★**トプカプ宮殿** 400年間にわたりオスマン・トルコ帝国代々のスルタン(トルコ系イスラム王朝の君主)の居城となった広大な宮殿。マルマラ海とボスポラス海峡を見渡す高台にあり、現在は宮殿博物館として公開されている。オスマン帝国の財宝を集めた絢爛豪華な展示品に驚嘆のほかない。

★**グランドバザール(大市場)** 1461年に建造されたトルコ第1の大バザール。アーケードになっており、約3万㎡の敷地に約3000軒の小さな店がひしめいて、宝石、絨毯、金銀細工、民芸品などを売っている。買いたせば金はいくらあっても足りないほどエキゾチックな品物が溢れている。見るだけでもすごく楽しめる場所。

★**エフェソス** ギリシャ・ヘレニズム時代からローマ時代にかけて栄えた古代都市遺跡としてトルコ最大の見所となっている。特にイエスの死後、この町へ逃避して住みついた12弟子の1人、聖ヨハネは、ここでヨハネ福音書を書いて没した。彼の墓の跡へユスティニアヌス帝とその妻テオドラが建立した**聖ヨハネ聖堂**の遺跡がある。ヨハネはここへ来るときに聖母マリアを連れて逃れたという伝説があったが、近代の発掘でそれが立証された。その**聖母マリアの家**は南の丘にある。その他、世界7不思議の1つのアルテミス神殿跡、ハドリアヌスの神殿、イスラム建築の傑作イサ・ベイ・ジャミ、大理石通り、初期キリスト教の「7つの教会」の1つであった二重教会、その他の遺跡が多数残っている。エフェソスは希望者のみのオプション(選択)・ツアー。GAP会員必見の場所。

〈ギリシャ国の歴史は省略〉

★**アテネ** 人口350万の大都市でギリシャの首都。古代ギリシャの都市国家群のなかで政治的・文化史的に比類のない重要な役割を果たした。したがって遺跡も多数残存し、名所旧跡も多い。

★**アクロポリスの丘** 大アテネ市の中心部にある高さ156mの岩山。ここにはあまりにも名高いパルテノン神殿が2500年の風雪に耐えて屹立している。ギリシャの象徴ともいえるこの丘はパルテノン神殿と付属する一群の建築物で前5世紀以後壮麗をきわめたが、後に不運な戦乱により荒廃した。しかし近代になって徹底的に発掘され、整備されている。以下略。

詳細については下記へ案内書をハガキでお申込下さい。
〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F
ワールドセプトラベル社 田中正(宛)
☎(03)499-2461 夜間 0462-63-0615(田中宅)



日本GAP全国月例研究会案内



支部名	日 時	会 場	会 費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00 ※61年2月より開始時間を2時から1時30分に繰り上げ。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先=日本GAP ☎03-651-0958	¥500	1:30→2:30 会員による体験講演。 2:30→4:00 久保田会長の「生命の科学」講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:00→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:00 ※4月は大会なるも月例会は実施。	長岡駅前「パークホテル」2F、ローズルーム ☎0258-36-2331 連絡先=星富治夫 ☎02579-2-5562 足立亘宏 ☎0252-62-0968	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F 国際会議室 連絡先=喜多正宣 ☎092-863-5438	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※6月のみ第3日曜日の15日に変更。午後1:30より4:30まで。	名古屋市中村区那古野1-47-1「名古屋国際センタービル」5F第2会議室。☎052-581-5678。 国鉄・名鉄・地下鉄の名古屋駅より徒歩7分。 連絡先=林 国宜 ☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車。徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎0238-37-5635	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-822-8260	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は大会のため月例会は中止。	静岡市駿府町「静岡県婦人会館」会議室。 ☎0542-54-5221。 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。☎0166-26-1304。 連絡先=阿部 堯 ☎01658-2-1585	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレパシー練習。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	奇数月：広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 偶数月：松山市民会館会議室。 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先=久保寺信一 店：☎0276-25-5958 自宅：☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市堤町1丁目4-1「青森市文化会館」会議室。☎0177-73-7300。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
沖縄支部	毎月第3日曜日 午後1:00→6:00	那覇市寄宮1-2-1「那覇市民会館」1F A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先=新里義雄 ☎09889-3-3695	¥500	テキストとして「生命の科学」と「宇宙哲学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想念観察とテレパシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」第1研修室。☎044-222-4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先=大崎孝典 ☎0492-65-0389	¥500	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「水戸市中央公民館」4F小集會室。☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:30→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止。	塩尻市大門7番町「塩尻市総合文化センター」第1会議室。☎0263-54-1253。塩尻駅下車、徒歩10分。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥300	テキストとして「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
紀南会	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。☎0735-21-2760。国鉄新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「生命の科学」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。

★本誌バックナンバー(旧号)★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

- No.89** 主要記事「八ヶ岳に出現した円盤」秋山京子 / 「富士山麓にUFO頻出」高梨和明 / 「金星文字解読研究」遠藤昭則 / 「ノアの箱舟とアブラハム」久保田八郎 / 「アステロイド帯と月のクレーター」ウィリアム・L・ブライアン
- No.90** 主要記事「朝霧高原の不思議な月」伊藤達夫 / 「旭川にも月擬装UFO出現」石川晴道 / 「尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船」/ 「ムーンゲート第14章(完)」ウィリアム・L・ブライアン / 「アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法」久保田八郎
- No.91** 主要記事「円盤に乗った日本人少年」伊藤達夫 / 「ブラジル人教授の円盤搭乗事件」/ 「質疑応答」G・アダムスキー / 「太陽系の惑星に知的生物が存在!?」 / 「地球の哲学と宇宙哲学の相違(2)」松原真弓
- No.92** 主要記事「偉大な惑星から来た兄弟たち」野口敏治 / 「サン・ピエトロ大寺院の異星人」久保田八郎 / 「米トップ科学者、UFO墜落の事実を認める」ゴードン・クレイトン / 「質疑応答」G・アダムスキー / 「地球の哲学と宇宙哲学の相違(完)」松原真弓

各¥700 バックナンバーに限り送料は不要

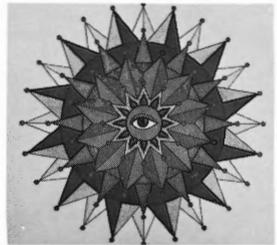
「生命の科学」解説講義録音テープ

昭和61年1月より1年間、東京月例研究会で日本GAP会長・久保田八郎先生が、スペース・プラザへの指導のもとにアダムスキーの名著「生命の科学」を新しい視野と清新な感覚をもって行う解説講義の録音テープです。テレパシー開発や宇宙的人間を目指すGAP会員必聴の重要資料となるものです。

テープ1本(90分) ¥1000 千200

*このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい(1月分より在庫)。

〒430 静岡県浜松市三島町808-2 小島国弘
TEL. 0534-42-3507 振替/名古屋7-51065



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ガイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャピネ判・カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真)上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥600 千120 ②¥300 千60 一括注文の場合千120

③ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレビシシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。

¥600 千120



—日本GAP—

会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団 / 多数の会員と共に宇宙的人間を目指そう / 入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう!

—日本GAP—

●本誌はUFO問題と宇宙哲学の高密度なインフォメーション提供を目指して作られています。編集・レイアウト・版下製作は編者が一人で行い、本文写植打ちは助手の安藤澄雄が担当しています。考えさせる、底の深い専門誌として独自の方針をたてぬぎます(事務関係は松村芳之助手が担当)。

●英文版Uコン二写を刊行中。これに掲載した「A Japanese Boy Who Went Aboard a Flying Saucer」(円盤に乗った日本人少年)は海外で大ショックを与えた模様で、驚異と絶賛に満ちた反響が続々と入ってきます。英語学習にも好適です。お申し込みお手に。誌代・送料は切手(低額切手)代用でOKです。金額分の切手を同封してご注文下さい。十冊以上一括注文の場合送料不要。

●本誌は約百名のボランティア(奉仕者)の方により、東京と全国主要書店に委託販売されています(これを直販といいますが)。宇宙のカルマをもつ人の発掘とスペース・プログラムの協力の意味で書店卸しチームにご参加されれば幸いです。ハガキでご一報下されば説明書をお送りします。

●日本GAP本部の住居表示が五月一日より左記のように変更になります。

旧 千133東京都江戸川区本一色町365-511
新 千133東京都江戸川区本一色1-12-1-511
電話番号は従来通り。

●読者のUFO目撃体験、宇宙哲学の実践成果等の原稿を募集しています。ふるってご投稿下さい。その他質問、相談等歓迎します。個人的な手紙類は編者が目を通すだけです。ご当方頑張りますので読者の皆様も頑張り下さい。

日本GAP機関誌・季刊 夏季号
UFO contactee 93th
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511
電話 03-6651-0995
振替 東京 41335912
昭和六十一年四月二十日発行
定価七〇〇円・送料2000円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

編集後記

●「多くの館」は三十年前の記事ですが、今更のごとくア氏の偉大な勇氣と自信について鮮烈な印象を与える内容です。この原本はかつてのGAP会員で現在はエドガー・ケイシーの活動を続けておられる林陽氏(千葉県)から贈られました。深謝します。

●以上他に投稿、資料等が少なからずありますが、紙数の都合により次号以下にまわしました。

まごころこめて。

電子パーツ・マイコンからオーディオビジュアル家電製品まで



クレジット大歓迎

ボーナス一括払いや、1~30回クレジットなど 手続きは とても簡単です。お気軽にご利用下さい。

あきはばら

ヒロセムセン

〒101東京都千代田区外神田1-10-5
☎255-2211(大代表)

電化のテパートの名にふさわしく家庭電化製品はもろろのこと、オーディオ・ビジュアル製品、照明器具、健康器具、海外旅行者用免税品、更には電子パーツ・工具類、パーソナルコンピュータまで電化製品ならなんでも取り揃えております。